授業科目(ナンバ	リング)	専門演	買ⅡA ((	CF301)	担当教員	井上	井上 英也(実務家教員		
展開方法	展開方法 演習 単位数 1単位 開講年次・時期 3年・前				3年・前期	必修・選択	必修		
授業のねらい									
本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な精神として、国際化、多様化、情報化が進む企業活動においても広く取り入れられている。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、"感じる力""考える力""表現・行動する力"を養い、観光産業のリーダーに必要な素養を修得することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。								24 67	
ホスピタリティ		学生	生の授業	におけ	る到達目標		評価手段・	評価	
を構成する能力							方法	比率	
専門力	地域観光いて、ヒ	光の核とな ごジネス、J	る宿泊業の 顧客、社員	役割を理解の観点から	解し、個々のホテル、 5評価ができる。	、旅館につ課	題レポート	30%	
情報収集、 分析力	世界お。ことがで	よび我が国 ごきる。	のホテル美	美の潮流に	テル関連記事や情報 ついて自分なりの身	見識を持つ授	21. 212.	40%	
コミュニケーシ ョン力	課題に利 パワース とができ	レイントを	り組み、自定 使って説得	分の考えを 导力のある	説明することができ プレゼンテーション		業への積極姿勢 レゼンテーション	20%	
協働・課題解決 力	施する。	グループでホテルに宿泊し、ゲストの観点からインスペクションを実授業への積極姿勢 施する。計画、実施、報告書作成、改善案の報告のプロセスの中で積ホテル・インスペク 極的に役割を果たし、グループに貢献することができる。 ションへの積極姿勢							
タ様性理解力 外国人旅行客が地域のホテル・旅館・観光全般に求めることを理解し、 改善策を提言することができる。								5%	
出席									
			合	計			100%		

## 評価基準及び評価手段・方法の補足説明

- 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。
- 「課題レポート」は提出時期(30%)内容の論理性・独自性(50%)文章構成力・形式要件(20%)で評価する。
- 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。
- (4) 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する
- 尚、評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。

#### 授業の概要

ホテルを利用するゲストの視点からホテルを評価する手法を学び、インスペクター(評価者)の体験をする。また、地 域観光におけるホテルの役割、インバウンドビジネスの取組みなどをグループ・アクティビティにより修得する。 また、 授業の理解度をポートフォリオのレスポンやイマキクを利用して確認する。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外 学修時間は、45分とする。

## 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:特になし/参考書:授業時に、指定する。 指定図書:「新・観光立国論」デービット・アトキンソン

- ①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。 ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。
- ③「ホテル管理論」「ホテルビジネス英語」「Hotel Management」など関連の科目を履修し、理解を深める。
- ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。
- ⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。

□	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方 をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んで おく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 個人目標を考えて おく
3	ホテル・インスペクション①	ゲスト視点から、ホテルの施設(ロビー/客室/レストランなど)およびサービス(フロント/レストランなど)をチェックし、評価する手法を考察する。	
4	ホテル・インスペクション②	ホテルを評価するためのチェックシートを作成する。 (日本人ゲスト、外国人ゲスト、それぞれのホテルに 対する要望を想定する)	(復習)チェックシートを 完成する
5	ホテル・インスペクション③	ホテル会社からゲストスピーカー(実務家)を招き、 インスペクションについて話し合う。また②で作成し たチェックシートの内容を確認する。	(復習) チェックシートを 修正する
6	ホテル・インスペクション④	佐世保周辺のホテルに宿泊し、インスペクションを実 施する。	(復習)レポートに取り上 げる内容を準備する
7	ホテル・インスペクション⑤	インスペクションの結果をグループで討議し、ホテル 会社に対するレポートを作成する。	(復習)レポートを完成す る
8	ホテル・インスペクション <u>⑥</u>	ホテル会社に対し、インスペクションの結果から改善 提案を行う。	(予習) プレゼンテーショ ンの準備をする
9	日本版 DMO におけるホテルの 役割①	今後の地方創成の中で、観光振興の柱として期待される DMO(Destination Management Organization)について学ぶ。	
10	日本版 DMO におけるホテルの 役割②	佐世保・小値賀島観光圏について、ゲストスピーカー (実務家) を招き、DMO の現状と今後の取組みについ て情報提供を受ける。	
11	日本版 DMO におけるホテルの 役割③	学生の視点で、観光圏におけるホテルの役割を考察し、 レポートを作成する。	(復習)レポートを作成す る
12	日本版 DMO におけるホテルの 役割④	③のプレゼンテーションを行い、グループ討議により 軌道修正した上で、レポートを完成する。	(復習)レポートを完成す る
13	インバウンドビジネス 事例研究①	長崎県内のインバウンドビジネスの現状を、ゲストスピーカー(実務家)から具体的な事例をヒアリングする。	1(予密) インパワンドビバ
14	インバウンドビジネス 事例研究②	①に関する実地調査を行った上で改善提案に基づきプレゼンテーションを行なう。	(予習) 改善提案を完成し、 グループ発表の準備をする
15	専門演習ⅡAのまとめ	専門演習ⅡA学んだことをグループごとにとりまとめ、 発表する。	(予習)グループ発表の準 備をする

授業科目(ナンバ	終科目(ナンバリング) 専門演習ⅡA(CF301) 担当教員 落合 知子								
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年·前期	必修・選択	必修	
	授業のねらい								
り、調査や本演習	テーマ:博物館・地域文化資源の博物館学的研究 博物館学的概念に立脚した博物館と地域文化資源について学ぶ。博物館学は幅広い分野の学問領域であり、調査や本演習を通じて卒業論文のテーマを決定し、論文作成の技法を習得し、プレゼンテーションを通して研究発表ができる技量を養う。								
ホスピタリテ ィを構成する 学生の授業における到達目標 方法								評価比率	
1 <del>11</del> ,11 //	博物館学に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に授業・調査への参付けることができる。 加							30%	
情報収集、 分析力	博物館学	学の特性や	問題点を見	出す力や周	思考力を養うことが	できる。事	前・事後学習	40%	
コミュニケー ション力	ゼミ形態 ことがで		基本とし、	学外のフィ	ールドワークで協詞	調性を養う調度	査における態	20%	
協働・課題解 決力	フィールドワークなどの調査方法を身に付け、PPTを使用したプレゼンテーションができる。勉強会に参加して発表ができる。 勉強会での発表 勉強会での発表							5% 5%	
多様性理解力									
出 席 受験要件									
			合	計			100%	6	

情報収集・分析力が40%、卒業研究に対する専門力が30%、フィールドワークでのコミュニケーション力が20%、プレゼンテーション、勉強会の発表各5%で評価する。

課題・レポートに対してのフィードバックはポートフォリオで行う。

# 授業の概要

- ・博物館の日程・調査方法などを検討する。
- ・現地調査を1 日以上実施する。
- 研究発表会を行う。
- ・研究成果レポートの作成と提出。
- この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。

## 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:特に指定しない。授業時の配布資料。 参考書:『博物館と観光』(落合知子編・雄山閣)

指定図書:『野外博物館の研究』(落合知子著・雄山閣)

### 授業外における学修及び学生に期待すること

本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。

また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも 積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。

※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。

# ※現地調査の旅費は実費とする。

	T		
回	テーマ	授業の内容	予習•復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習:シラバスを読む 復習:博物館調査館の考案
2		ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それ を基に本学期の目標設定について確定する。	予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習:本学期の目標設定の 清書
3	見夕能(/) 男前夕巻(1)		予習:博物館予備調査 復習:今回の復習
4	見学館の事前学習②	久田当孝の東前学羽の双手   太鈴テニュの漁堂	予習:発表の準備 復習:発表の反省
5	見学館の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習:発表の準備 復習:発表の反省
6	博物館調査	博物館及び地域文化資源の調査をする。	予習:調査内容の確認 復習:調査結果の整理
7	レポート作成	調査をもとにレポートを作成する。	予習:レポート内容確認 復習:レポート執筆
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習:調査収集資料の確認 復習:調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習:レポート執筆 復習:レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習:レポート執筆 復習:レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習:レポート執筆 復習:口頭発表の準備
12	研究発表		予習:口頭発表の準備 復習:口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習:口頭発表の準備 復習:口頭発表の反省
14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習:レポートの修正 復習:レポートの修正
15	前期レポートの受理	前期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習:レポート提出準備 復習:文献・資料の整理

授業科目(ナンバ	リング)	Ę	専門演習Ⅱ (CA111)	A	担当教員	滝 知則				
展開方法	展開方法 演習 単位数 1単位 開講年次・時期 3年・前期 必修・選択							必修		
	授業のねらい									
観光学の基本的 明できるようにな	<b>三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする</b> 観光学の基本的な理解と、佐世保・西九州に関わる国際交流史の学修に基づいて、三川内焼の特徴を説 明できるようになる。この説明は、2つの言語で行うことをめざす。これらを通じ、佐世保の観光対象と しての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。									
ホスピタリティ を構成する能力		学生	生の授業	におけ	る到達目標		評価手段・ 方法	評価 比率		
専門力	研究対象	象とする陶	磁器の歴史	と制作過程	星を理解し、説明で	きる。	朝末レポート	10%		
情報収集、分析力	資料調3 磁器の情	を、観察また 情報を収集	たはインタ する。	ビューを行	テうことにより、対1	象とする陶	期末レポート	25%		
コミュニケーシ ョン力					替え、説明できる。 言を傾聴できる。		ゼミ内発表会演 習参加状況	35% $10%$		
協働・課題解決 力	_	①三川内フィールドワークの際、2年生と一緒に調査を行うことがで ワーク・学術発表 きる。②学術発表の際、2年生を支援できる。								
多様性理解力 ぜミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互い演習への を尊重して行動できる。 参加状況								10%		
			出	席			受験要	件		
			合	計			100%	ó		
1										

- 1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴(毎回)、自他の文化の尊重(毎回)、フィールドワーク参加状況(実施時)、ゼミ内発表会、期末レポート(40%)である。
- 2. フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題:授業中、プレゼンテーション:当該授業時、期末レポート:提出締切後(個別に)

## 授業の概要

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。

## 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:指定しない。

参考書:『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。

指定図書:大橋康二 (2004) 海を渡った陶磁器. 吉川弘文館.

# 授業外における学修及び学生に期待すること

(1) 開国祭での学術発表への参加を、必須とする。(2) 観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。

回	テーマ	授業の内容	予習·復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習)シラバスの内容を理解し、 質問に答えられるようにしてお くこと。 (復習)指定された資料を収集し、 次回に持参すること。
2	省察	2年後期の学修成果を省察し、後期の個人目標設 定のための面談を実施する。	(予習) 対象観光地の歴史とアクセスを調べる。
3	事前準備1	①三川内焼の概要、②三川内へのアクセスについての調査結果の報告	(予習) 自分で集めた情報ならび に配布された情報を読み、内容を 理解しておく。
4	事前準備 2	①陶磁器の製作方法、②部分の名称についての調 査結果の報告	(復習) 指示された事項の説明を 箇条書きのリストにし、次回提出 する。
5	事前準備3	フィールドワークのスケジュール決定	(予習) 演習で提示できるように スケジュール案を作成する (復習) スケジュール通りに実施する ための確認をする。
6	フィールドワーク実施	フィールドワークの実施	(復習) 次回での報告に向け、調査メモを整理し、印刷する。写真・動画は報告に使うものを絞り込んでおく。
7	フィールドワーク ふりかえり 1	フィールドワークの報告(速報)	(予習) 5 分程度の報告メモを作成・印刷する。(復習) 各人の報告のよかったところをメモにまとめ、次回提出する。
8	文献講読 1	中国の陶磁器の歴史	
9	文献講読 2	朝鮮の陶磁器の歴史	(予習) 所定の資料の要約
10	文献講読 3	三川内焼の特徴	(復習)「速報」に追加する内容を、 次回で提出する。
11	文献講読 4	佐世保と三川内の観光の現状	
12	フィールドワーク ふりかえり 2	①第8週~第 11 週の学習内容を「速報」に反映させたプレゼンテーションを作成する。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮
13	フィールドワーク ふりかえり 3	②プレゼンテーションの内容を、リーフレット (A4 版 1 ページ)にまとめる。	してプレゼン資料を修正し、次回 で提示する。
14	ゼミ内発表会	<ul><li>①各ゼミ生によるプレゼンテーション (3分間)</li><li>②リーフレット</li><li>①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。</li></ul>	(予習) プレゼンの練習 (復習) ①プレゼンの評価、②目 標到達状況の確認
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③後期に向けての改善点、 ④次の調査対象地の検討、⑤期末レポートの指示	(予習) 三川内焼についてのさら なる調査事項のリストを用意す る。

授業科目(ナンバ	リング)	専門演	習ⅡA (CF:	301)	担当教員	田中 誠			
展開方法	開方法 演習 単位数 1単位 開講年次・時期 3年・前期 必修・選択				必修				
	授業のねらい								
交流することが ・特定のテーマに 思考や判断をす ・TOEIC の問題	<ul> <li>・社会生活に必要な内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において 交流することができる。</li> <li>・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ 思考や判断をすることができる。</li> <li>・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね理解することができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。</li> </ul>								
ホスピタリティ を構成する能力		学生	生の授業	におけ	る到達目標		評価手段· 方法	評価 比率	
専門力	TOEIC	5 470 点レー	ベルの語法	問題を概ね	2解くことができる。	•	テスト	35%	
情報収集、 分析力				集、及び解 ることがで	快のための思考・判♪ きる。	断能力を身 .	受講者の発表	40%	
コミュニケーシ ョン力	のかを説明することができる。							10% 15%	
協働・課題解決 力									
多様性理解力	多様性理解力								
			出	席			受験要	 [件	
			合	計			100%	6	

- 1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。
- 2. 14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。
  - 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。

#### 授業の概要

英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEICに関して深く学ぶ。 (コースの指定は特にしない。)

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

## 教 科 書 · 参 考 書

教科書:『脱文法 100トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。

参考書:『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』 TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。

『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600点』 TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。

指定図書:『日本人の英語』 マーク・ピーターセン (著)、岩波新書。

## 授業外における学修及び学生に期待すること

コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。

□	テーマ	授業の内容	予習•復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習: TOEIC の最新情報について調べる 復習:音読筆写
2	前学期の省察と本学期 の目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定す る。面談の実施	予習: 前学期の省察と本学期 の目標設定の下書き 復習: 本学期の目標設定の清 書
3	寺社1	寺社に関する表現1、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習: TOEIC 1-10 について 調べる 復習:英文1-10音読筆写
4	寺社2	寺社に関する表現2、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習: TOEIC 11-20 について 調べる 復習:英文11-20 音読筆写
5	飲食店	飲食店に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習: TOEIC 21-30 について 調べる 復習:英文 21-30 音読筆写
6	自分の意見を言う①	効果的なグループディスカッションについて学ぶ①(レベル 2)、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習: TOEIC 31-40 について 調べる 復習:英文31-40 音読筆写
7	食べ方	食べ方に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習: TOEIC 41-50 について 調べる 復習:英文41-50 音読筆写
8	浮世絵1	浮世絵に関する表現1、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習: TOEIC 51-60 について 調べる 復習:英文 51-60 音読筆写
9	浮世絵2	浮世絵に関する表現2、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70 について 調べる 復習:英文61-70 音読筆写
10	温泉	温泉に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習: TOEIC 71-80 について 調べる 復習:英文71-80 音読筆写
11	温泉の効能	温泉の効能に関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習: TOEIC 81-90 について 調べる 復習:英文81-90 音読筆写
12	自分の意見を言う②	効果的なグループディスカッションについて学ぶ②(レベル 2)、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習: TOEIC 91-100 につい て調べる 復習:英文91-100 音読筆写
13	祭り	祭りに関する表現、TOEIC 問題、翻訳研究、ディスカッション	予習: TOEIC 101-110 につい て調べる 復習:英文101-110 音読筆写
14	獅子舞	獅子舞に関する表現、TOEIC 問題テスト実施、翻訳研究、 ディスカッション	予習:試験の準備学習、 復習:音読筆写
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、TOEIC 問題、 翻訳研究	予習: TOEIC 111-120 につい て調べる 復習:英文 111-120 音読筆 写、振り返り

授業科目(ナンバ	リング)	専門演習ⅡA(CF301)		(CF301)	担当教員		中山 忠彦		
展開方法	展開方法 演習 単位数 1単位 開講年次・時期 3年・前期				3年・前期	必修・選択	必修		
授業のねらい									
ーマンス測定の手 を通じて個人およ スマートフォンを	専門演習 II A・II B では、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツパフォーマンス測定の手法の習得」を 3 大目標として、演習を展開します。 II A の前半から、各種ワーク(輪読) を通じて個人およびグループにて課題解決に取り組みます(コミュニケーション力)。また、PC もしくは スマートフォンを用いた文書作成・表計算技能を習得します(メディアリテラシー)。 II A の後半では、スポーツパフォーマンスの測定と評価の手法について実践を通じて修得します。								
ホスピタリティ を構成する能力		学生	生の授業	におけ	る到達目標	部	延価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul><li>・スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニング科学の理論を説</li><li>・課題レポート明することができる。</li><li>・スポーツパフォーマンス測定を適切に実施できる。</li><li>・作業課題</li></ul>								
情報収集、分析力	用でき ・自身 <i>の</i>	きる。	る研究分野	を選定し、	研究・データ収集にす 関連する文献を収 る。	集できる。・	作業課題 研究レポート 作業課題	10% 20% 10%	
コミュニケーシ ョン力					きるとともに、他ゼ: ミュニケーションが	ミ生の意見 とれる 組	フークへの取り み態度とワー による成果	10%	
協働・課題解決 力	・ワークへの取り ・各種ワーク・活動に対して、共同して誠実に取り組むことができる。組み態度とワークによる成果								
多様性理解力	多様性理解力 ・自分自身の特長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、 周囲に不快感を与えない配慮ができる。 10%								
		-	出	席			受験要	· 译件	
			合	計			100%	6	

・ワークへの取り組みと成果を評価する(評価比率:20%)。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。・メディアリテラシーおよびパフォーマンス測定の作業課題を評価する(評価比率:30%)。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。・課題レポート(評価比率:20%):「競技スポーツの特長とパフォーマンス向上のためのトレーニング」について評価し、第15回授業時にフィードバックする。・受講態度(評価比率:10%):受講ルールの遵守と積極的な受講態度を評価する。・研究レポート(評価比率:20%):授業での研究活動の内容を総合評価し、個別にフィードバックする。

## 授業の概要

本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施します。また、PC・スマートフォンを使用しメディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにします。さらに、スポーツに関する科学的知識を理解することで、自らのスポーツキャリアが社会にどのように貢献できるかを見極めたうえで、研究を行うための基礎力を習得します。なお、スポーツ(指導)体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じる場合があります。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。

## 教 科 書 · 参 考 書

教科書:「コーチング学への招待」日本コーチング学会(編)(大修館書店)ISBN: 978-4-469-26819-5

参考書:「トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版」NPO 法人日本トレーニング指導者協会(編)(大修館書店)

ISBN: 978-4-469-26754-9

参考書:「健康・スポーツ科学のための Excel による統計解析入門」 佐藤 進 他 (杏林書院) ISBN:978-4-7644-1108-1 指定図書:「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介 (杏林書院) ISBN: 978-4-7644-1162-3

**授業外における学習**:様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各種スポーツの特性や可能性からスポーツの意義や価値を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集することを望みます。

学生に期待すること: スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習に誠実な態度で取り組み、責任ある社会人として魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。

口	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	・演習授業の進め方についての説明 ・メディアリテラシー (連絡網作成) ・自己紹介と他己紹介	予習:シラバスを熟読し理解する 復習:受講規則の確認
2	本学期の目標設定	<ul><li>・コミュニケーションワーク (情報交換)</li><li>・メディアリテラシー (アプリ活用)</li><li>・前学期の省察を行い、目標を設定</li></ul>	予習:前学期の省察 復習:本学期の目標を確認
3	スポーツ科学の常識	<ul><li>・コミュニケーションワーク (スポーツの常識)</li><li>・メディアリテラシー (情報収集)</li></ul>	予習:スポーツの常識、非常識について考えられることを整理する 復習:スポーツを科学することの意義 について考えをまとめる
4	キッズスポーツ指導 体験	・コミュニケーションワーク(交流) ・メディアリテラシー(文書作成・レポート) ・発育発達に応じた運動の理解	予習:発育発達期の子どもの特長を理解する 復習:子どもへの運動指導
5	輪読①	<ul><li>・コミュニケーションワーク (ミーティング)</li><li>・輪読テキストの選定と紹介</li><li>・輪読箇所の担当を決める</li></ul>	予習:選定した教科書に目を通してお く 復習:担当箇所を精読する
6	輪読②	<ul><li>・コミュニケーションワーク (ディスカッション) (テーマ:競技力とトレーニング)</li><li>・メディアリテラシー (文書作成)</li></ul>	予習:担当箇所のレジュメ作成 復習:聴講者の質疑応答の内容をまと める
7	輪読③	<ul><li>・コミュニケーションワーク (ディスカッション) (テーマ:競技力の養成)</li><li>・メディアリテラシー (文書作成)</li></ul>	予習:担当箇所のレジュメ作成 復習:聴講者の質疑応答の内容をまと める
8	輪読④	<ul><li>・コミュニケーションワーク (ディスカッション) (テーマ:競技トレーニングの計画)</li><li>・メディアリテラシー (文書作成)</li></ul>	予習:担当箇所のレジュメ作成 復習:聴講者の質疑応答の内容をまと める
9	輪読⑤	<ul><li>・コミュニケーションワーク (ディスカッション) (テーマ:試合への準備)</li><li>・メディアリテラシー (文書作成)</li></ul>	予習:担当箇所のレジュメ作成 復習:聴講者の質疑応答の内容をまと める
10	輪読⑥	<ul><li>・コミュニケーションワーク (ディスカッション) (テーマ:コーチングにおけるマネジメント)</li><li>・メディアリテラシー(文書作成)</li></ul>	
11	輪読⑦	<ul> <li>・コミュニケーションワーク (ディスカッション) (テーマ:スポーツ医・科学、情報によるコーチング支援)</li> <li>・メディアリテラシー (文書作成)</li> <li>・課題レポート作成 (締め切り:第12回終了時)</li> </ul>	
12	パフォーマンス測定 ①	<ul><li>・コミュニケーションワーク (協働)</li><li>・測定方法の手順と確認</li><li>・メディアリテラシー (測定用紙作成)</li></ul>	予習:測定方法を確認する 復習:測定記録用紙のフォーマットを 完成させる
13	パフォーマンス測定 ②	<ul><li>・コミュニケーションワーク(協働)</li><li>・メディアリテラシー(データ入力)</li><li>・収集した測定値の確認</li></ul>	予習:選択した測定方法について、熟練するまで反復練習する 復習:入力データ不備の確認
14	研究レポートの作成 ①データの再確認		予習:入力データ不備の確認 復習:レポート作成に取り組む
15	研究レポートの作成 ②レポート作成	<ul><li>・アカデミックライティング</li><li>・研究レポートの作成</li></ul>	予習:研究レポートの作成 復習:研究レポートを完成させる

授業科目(ナンバ	受業科目(ナンバリング) 専門演習IIA (CF301) 担当教員 大井田					大井田が	いおり(実務経験	のある教員)		
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	朝 必修・選択	必修		
	授業のねらい									
合旅行業務取扱管	総合旅行業務取扱管理者試験にも出る観光業に必要な知識やパソコン操作、企画について学びます(総合旅行業務取扱管理者試験受験者は、別途準備を行う)。また、視覚伝達について学習し、観光現場に生かすのにはどうしたらいいかを考察します。									
ホスピタリティ を構成する能力		学。	生の授業	きにおけ	る到達目標		評価手段・方法	評価比率		
専門力	視覚に	旅行業・観光ビジネスに必要な計算とパソコン操作ができる。 視覚にハンディを持つ人に配慮した観光企画を行うことができる。 バーチャル観光について理解できる。 ・課題作品(小 テスト課題も含む) ・授業態度								
情報収集、分析力		を考慮した とができる		/を企画で	き、そこに必要な情	青報を収集	・課題作品 ・授業態度	35% 15%		
コミュニケーション力		ハンディを ることがで		小国人等多	様性を考慮した観光	ピプランを	・課題作品 ・授業態度	10% 10%		
協働・課題解決 力	課題解決									
多様性理解力										
			出	席			受験要	<u></u> 译件		
			合	計			100%	<b>%</b>		
			=== /== += ×	# TJ ~ V = TJ /TT	ての 十分の共口部					

課題作品(プレゼン、小テストも含む)70%、授業態度 30%。授業態度・授業への参加・受講者の発表については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。フィードバックは授業中もしくはポートフォリオで行う。・レポート等の提出はポートフォリオで行う。

## 授業の概要

旅行業・観光ビジネスおよび視覚伝達について学習する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

## 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書&指定図書:二通信子ほか『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会、小野目如快『Office2019で学ぶコンピュータリテラシー』実教出版

参考書:その都度指示する

## 授業外における学修及び学生に期待すること

前半は旅行業・観光ビジネスに必要な知識や技術を学習します。総合旅行業務取扱管理者試験を受験する人は個別に 応対するので、申し出て下さい。後半は視覚伝達について学習します。

口	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	前学期の省察と今学期の目標 設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	前学期の省察と本学期の目 標を整理しておく。
2	航空時刻表と時差計算	航空時刻表と時差計算に慣れる。	航空時刻表と時差計算の 仕組みについて調べてお く。
3	税関手続きと税金	税関手続、特に旅行者の免税の計算方法について正確 に理解する。	入国時の税金の計算の仕 方について調べておく。
5	国際航空運賃の理解	国際航空運賃の仕組みについて理解し、運賃計算の仕組みに慣れる。	国際航空運賃について調べておく。
6	旅行ビジネスに必要な Word 操作	観光ビジネスに必要な Word 操作を復習する。	Word 操作の仕方と原理に ついて復習しておく。
7	旅行ビジネスに必要な Excel 操作	観光ビジネスに必要な Excel 操作を復習する。	Excel 操作の仕方と原理 について復習しておく。
8	旅行企画書の作成とプレゼ ンテーション1	旅行企画書の作成およびプレゼンテーションについ て学習する。	企画書の作成法と PowerPointによる表現法 について学ぶ。
9	旅行企画書の作成とプレゼ ンテーション 2	旅行企画書とプレゼンテーションを発表する。	企画書とプレゼンテーショ ンの発表準備を行う。
10	ユニバーサルツーリズム 1	視覚にハンディを持つ人の観光について考える。点字 の歴史や原理を学ぶ。	点字の歴史や原理について 調べておく。
11	ユニバーサルツーリズム2	点字の作成と実習を行う。	点字表を見て、慣れるよう にしておく。
12	ユニバーサルツーリズム3	視覚にハンディを持つ方向けの案内を実際に作成し、 観光に役立てることを考える。	視覚にハンディを持つ方 向けの案内を作成する。
13	バーチャル観光について1	バーチャル観光とはどのような観光であるかを学ぶ。	どのようなバーチャル観光 があるかを調べておく。
14	バーチャル観光について2	プラネタリウムを体験する。	プラネタリウムについて調 べておく。
15	バーチャル観光について3	バーチャル観光の企画を行う。	プレゼンテーションのパ ワーポイントを作成する

授業科目(ナンバリング) 専門演習IIA (CF301) 担当教員 落合 和昭(実務家教員							員)		
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修	
授 業 の ねらい									
ホスピタリティは観光事業全般において、定性的な影響をもたらすのみならず、定量的な効果をも生み出す ことが広く認識されています。従って本演習では、①ホテルは複数の仕事や商品から成り立っていることが 多いため、その全体を理解します。②ホテルには複数のステークホルダー(利害関係者)がいます。ホテル がそれらに与える影響を意識します。③ホテルを開発する手法を学びます。ホテルは「新たな需要を作り出 す」とも言われます。④架空のプランや計画を想像することで、業務への理解を深めます。									
ホスピタリティ を構成する能力		学 /	生の授業	こおけ	る到達目標		評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	ホテルに も提案で	ホテルにおける開発業務を理解し、新しいマーケットの創造に関して 課題レポート も提案することができる。							
分析力	2) ( ) ( E	最新のホテル関連記事や情報を収集すると同時に、事業開発の潮流に 授業への積極姿勢 ついて自分なりの見識を持つことができる。							
34-34-	かじさる	課題に積極的に取り組み、自分で架空のシミュレーションを行うこと ができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテー ジョンをすることができる。							
協働・課題解 決力	現在のホテル関系にあたり 自分の役割を設定   ガループに貢献才授業への積極次勢							5%	
多様性理解力	解力							5%	
出 席 受験要件									
			合	計			100%		

- ① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。
- ② 「課題レポート」は提出時期(30%)内容の論理性・独自性(50%)文章構成力・形式要件(20%)で評価する。
- ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。
- ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する

### 授業の概要

・ホテルを開発する時に必要な作業を学ぶ。

市場調査書の作成(どんなマーケットが期待できるか)

設計与件書の作成(その市場ではどのようなホテルが最も相応しいか)

事業収支計画の作成 (そのホテルの投資額や期待される利益はどの程度か)

・自分で架空の計画を作成して、ホテル開発をシミュレーションする。

また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンなどを利用して確認する。課題レポートは、翌週の演習でフィードバックすると同時に、1週間コンテンツに掲示する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

# 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:特になし/参考書:授業時に、指定する。 指定図書:授業時に、指定する。

- ① ホテル・旅館など宿泊産業や観光イベントなどの情報に興味を持ち、メディアから積極的に入手する。
- ② ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行い、異文化交流を図る。
- ③ 「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。

□	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方 をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んで おく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 個人目標を考えて おく
3	ホテル開発に関する要件	ホテル開発を計画するにあたり必要とされる要件に関 して、説明を受け理解する。	(復習)自身で架空のホテ ル計画を立案する。
4			(復習)説明に基づき、架 空のホテル計画に関わる市 場調査を行う。
5	ホテル開発に関する市場調査 ②	調査結果を発表し、それにより予測されるホテル計画 について、相互に評価や提案を行う。(1回目)	(復習) 意見交換結果をま とめて、市場調査書に反映 させる。
6	ホテル開発に関する市場調査 ③	調査計画を発表し、それにより予測されるホテル計画 について、相互に評価や提案を行う。(2回目)	(復習) 意見交換結果をま とめて、市場調査書を完成 させる。
7	ホテル開発に関する設計与件 書①	設計者が前提とする設計与件書の作成について、説明 を受けて理解する。	(復習)説明に基づき、自 身で作成する架空のホテル 概要を計画する。
8	ホテル開発に関する設計与件 書②	計画にあたって生じた質疑の意見交換を行うととも に、補足説明を受ける。	(復習) 質疑応答結果をま とめて、設計与件書の概要 を作成する。
9	ホテル開発に関する設計与件 書③	自身で作成した設計与件書の概要を発表し、相互に評価や提案を行う。(1回目)	(復習) 意見交換結果をま とめて、設計与件書を完成 させる。
10		自身で作成した設計与件書の概要を発表し、相互に評価や提案を行う。(2回目)	(復習) 意見交換結果をま とめて、設計与件書を完成 させる。
11	ホテル開発に関する事業収支 計画①	「「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(復習)説明に基づき、自 身で作成する架空のホテル 投資を計画する。
12	ホテル開発に関する事業収支 計画②	自身で作成した投資計画の概要を発表し、相互に評価 や提案を行う。	(復習) 質疑応答結果をま とめて、投資計画の概要を 作成する。
13	ホテル開発に関する事業収支 計画③	事業推進者が判断の前提とする収支計画の作成につい て、説明を受けて理解する。	(復習)説明に基づき、自 身で作成する架空のホテル 収支を計画する。
14	ホテル開発に関する事業収支 計画④	自身で作成した収支計画の概要を発表し、相互に評価 や提案を行う。	(復習) 質疑応答結果をま とめて、収支計画の概要を 作成する。
15	専門演習ⅡA のまとめ	専門演習ⅡA学んだことをとりまとめ、発表する。	(予習) 発表の準備をする

授業科目(ナンバ	リング)	専門	演習 II A (CF	301)	担当教員		乙須 翼			
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前	期 必修・選択	必修	必修	
	授業のねらい									
の考えを的確に該 を図りたい。テー を討議していく。	本演習では、受講者が文献を講読・発表・議論する中で、文献を批判的に読み解き分析する力、自分 の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、他者と建設的な議論をする力、これらの力の養成 を図りたい。テーマは「日本の教育と社会を語ろう、考えよう」とし、現代日本の教育問題や社会問題 を討議していく。また文献の講読等を通じて、テーマに関わる基本的な法律や制度、時事問題の基礎知 識を習得することもねらいとする。							1568	)(12)	
ホスピタリティ を構成する能力		学	生の授業	におけ	る到達目標		評価手段・ 方法	評価 比率		
専門力					に関する基本的語句 事象の問題性を指摘		レジュメ 発表と議論	15 15	% %	
情報収集、 分析力	テーマに	に関するデ	ータや論文	などを的研	することができる。 雀に読み取ることが	-	レジュメ 発表と議論	15 15	% %	
コミュニケーシ ョン力	根拠とな	よる資料を こができる。	提示しなが	ら自分の身	見解を述べ、他の受調	<b>溝者と議論</b>	発表と議論	20	%	
協働・課題解決 力	群決 子ども達を取り巻く環境や日本社会が抱える問題について、自分なり レジュメ に問題点を指摘し、解決に向けた方策を提案することができる 発表と議論						10 10	% %		
多様性理解力										
			出	席			受験 9	要件		
			合	計			100%			

評価については、レジュメの様式・内容を 40%、発表と議論を 60%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による批判的考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な議論を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席(特に担当日)は大幅に減点する。

## 授業の概要

授業については、日本の教育と社会について受講者全員で議論したいテーマを設定し、担当者が資料や論考をレジュメにまとめ、授業ではそれを基に議論する。またその過程で、テーマに関する制度や法、現状や今後の課題などについて理解を深める。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。

#### 教科書·参考書

教科書:指定しない 指定図書:志水宏吉編『岩波講座 教育』(1~7巻) 岩波書店 (2016) 指定図書:小熊英二『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社 (2019)

参考書:勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』有斐閣(2015)

木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ【改訂版】』有斐閣(2019)

#### 授業外における学修及び学生に期待すること

※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。 また、議論には積極的に参加し、毎回必ず発言すること。

- ※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。
  - ・教職課程を履修しているもの

- ・日本の時事問題に関して理解を深めたいもの
- ・子どもや教育の問題について関心のあるもの ・ 論理的な思考法や論理的な文章作成法を学びたいもの
- ※本演習の受講者には「教育学」の受講を勧める。また留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。
- ※専門演習ⅡA終了後、夏期休暇中の課題として本1冊の講読を求める(発表は専門演習ⅡB)。

回	テーマ	授業の内容	予習•復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目 標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察 を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそ れを基に教員と個別面談を行う。	
3	興味関心を高める①	各自が最も興味を持っている日本の教育問題・社会問題に関する新聞記事を紹介し、受講生全員で議論する。	
4	興味関心を高める②	各自が最も興味を持っている日本の教育問題・社会問題に関する新聞記事を紹介し、受講生全員で議論する。	予) 新聞記事の収集と発表 準備 復) 議論を振り返る
5	興味関心を高める③	『岩波講座 教育』等から講読したい論考を選び、発表担当者を決定する。報告手法(レジュメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など)を説明する。	予) 講読・議論したいテーマを考えておく復) 報告手法の復習
6	基礎知識の修得①	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読 し、基本的事項を修得する。 例)テーマ:子どもの貧困と学力	予) テーマに関する下調べ 復) 基本的事項の確認
7	論考の講読①	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 山田哲也「格差・貧困から公教育を問い直す」	子) 論考の講読あるいはレ ジュメの作成 復) 議論を振り返る
8	基礎知識の修得②	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読 し、基本的事項を修得する。 例)テーマ:ネット社会と子ども	予) テーマに関する下調べ 復) 基本的事項の確認
9	論考の講読②	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 土井隆義「ネット・メディアと仲間関係」	予) 論考の講読あるいはレ ジュメの作成 復) 議論を振り返る
10	基礎知識の修得③	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読 し、基本的事項を修得する。 例)テーマ:ジェンダーと教育	予) テーマに関する下調べ 復) 基本的事項の確認
11	論考の講読③	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例)木村涼子「ジェンダー秩序を巡る教育のポリティクス」	予) 論考の講読あるいはレ ジュメの作成 復) 議論を振り返る
12	基礎知識の修得④	次週読む論考について教科書等の資料を全員で講読 し、基本的事項を修得する。 例)テーマ:教師の仕事	予) テーマに関する下調べ 復) 基本的事項の確認
13	論考の講読④	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 伊藤美奈子「教師のメンタルヘルス」	予) 論考の講読あるいはレ ジュメの作成 復) 議論を振り返る
14	興味関心を高める④	日本の教育問題・社会問題について本演習で学んだことを整理し、発表する。また、夏季休暇中に講読する 本のテーマを決定する。	予) 発表準備 復) 議論を振り返る
15	まとめ	前期の授業の振り返りと夏季休暇中に講読する課題 本を決定する。夏季休暇後のスケジュールを確認す る。	予) 課題本を見つける 復) 議論を振り返る

授業科目(ナンバ	リング)	専門演	習ⅡA(	CF301)	担当教員		尾場均		
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	3年・前期 必修・選択		
授業のねらい									
長崎県佐世保市をテーマに放送用プロ機材を使った映像作成と FM 放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。関連する資格取得を目指す。 観光の情報発信の手段として調査やイベントの企画・実施等のソフト的な取り組みと、観光に関わる基 礎的知識を有し、観光情報を発信する能力を取得する。まちづくりイベントを起案し実践する 前年度は番組出演、映像作成・佐世保市との協働によるイベント企画運営を実践した。									
ホスピタリティ を構成する能力		学生	生の授業	におけ	る到達目標	į	評価手段・方法	評価比率	
専門力	課題提示に対す 伝えたい情報を適切に判断し、正しく伝達することができる。 課題提示に対す る個人によるプ レゼンテーショ ン							30%	
情報収集、分析力	きる。観光情報の発信を通じて、メディアリテラシーを理解すること 企画・番組内容								
	ミュニケーシ 情報発信とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に意欲的に参加授業態度・活動へ ンカ をすることができる。 の参加度							20%	
協働・課題解決 力	課題提示に対す 積極的に話し合いをし、自分から働きかける力を身につけることがでるチームによる きる。 プレゼンテーション							10%	
多様性理解力									
			出	席			受験要	件	
			合	計			100%	o'	

#### 評価基準及び評価手段・方法の補足説明

活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用度、 地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの 理解と開発内容、検定試験への取り組み、SNS による情報発信、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィー ドバックは、ポートフォリオを通して行う

### 授業の概要

観光情報について実践的に学ぶ。まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現 |地にて実施する。本講義では、様々な分野の専門も関与して、受講する学生のアイデアを産業界等で実用化することや ベンチャー企業を設立するなど、産学協同により大学等における学びを社会実装することを志向した授業を行う。この 授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

## 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:なし 参考書:なし

指定図書:『調べる技術・書く技術』 講談社

#### 授業外における学修及び学生に期待すること

授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。

情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する 人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。

※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。

観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム

口	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備 (内容把握)	予:事前に研究室ホーム ページを参照し活動内容 を理解
2	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予:資格の調査分析
3	放送機材の活用	放送用機材を使った撮影録音操作・活用を実践する	予:映画を作るときに必要 な機材を調べる
4	ポートフォリオ・Web 演習・面談	コミュニケーション用ポートフォリオ・Web の演習 個人目標設定のための面談を実施する	予:SNS の登録とメールア ドレスを確認と事前準備
5	番組・映像デザイン準備	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予:番組テーマの決定
6	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予:作成原稿の確認と読み 合わせ
7	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 (情報コンテンツの開発を含む)	予:事例研究・分析
8	文書作成とデータ管理	文章の作成とデータベース、グラフィクスの演習	予:アプリケーションの動 作確認
9	映像プレゼンテーション	ソフトウエア操作、字幕やテロップの演習	予:指定サイトの参照
10	番組制作・情報発信	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成と番組出演	予:作成原稿の確認と読み 合わせ
11	SNS・Web オープンソース	SNS・Web の操作・管理、コンテンツ作成	予:指定サイトの参照
12	番組制作・情報発信	番組作成のための調査・取材実践。放送や作品の作成と 番組出演	予:作成原稿の確認と読み 合わせ
13	放送実施企画	放送番組や映像作品内容の確認と内容研究	予:内容の確認と発表練習 等
14	事前制作発表	グループでの番組やコンテンツを企画し発表する	予:作成原稿の確認と読み 合わせ。事前確認・練習
15	制作発表	具体的な番組やコンテンツを企画し発表する	予:事前確認・練習

展開方法         演習         単位数         1         単位         開講年次・時期         3年・前期         必修・選択         アクティフラーニンの類型         ラーニンの類型         本演習         本演習         本演習         本演習         本演習         本演習         上記をにませた会別である。文化共生社会における「ことば」像を描き、あらたな言語観を生み出すための視点を培うことをねらいとしている。         ①④⑤⑦         本における「ことば」像を描き、あらたな言語観を生み出すための視点を培うことをねらいとしている。「評価手段・方法」評価比率を構成する能力         評価手段・方法         評価比率を構成する能力・方法         評価手段・方法         評価比率を構成する能力・方法         評価上等         のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	授業科目(ナンバ)	リング)	専	門演習IIA	(CF301)	担当教員		佐野 香織			
授業のねらい	展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期 必修・選択		业	修	
参加することを通して、「ことば」をつくる実践をしていく。そして、多様な人と生きる多文化共生社会における「ことば」像を描き、あらたな言語観を生み出すための視点を培うことをねらいとしている。  ホスピタリティを構成する能力  学生の授業における到達目標  現代日本における「ことば」を様々な観点から考察し、社会状況から「ことば」のあり方の未来像を描くことができる。  情報収集、分析力  まちの人と関わりながら情報収集をし、分析、考察することができる。  発表資料 事前・事後学習 20 % 20 % 20 % 20 が 20 % 20 % 20 % 20 %	授業のねらい									ニング	
変構成する能力       学生の授業における到達目標       評価手段・方法       評価比率         専門力       現代日本における「ことば」を様々な観点から考察し、社会状況から「ことば」のあり方の未来像を描くことができる。       レポート       30 %         情報収集、分析力       まちの人と関わりながら情報収集をし、分析、考察することができる。       発表資料事前・事後学習       20 % 20 %         コミュニケーション力       他者に課題を分かりやすく説明し、話し合い検討することができる。       発表ディスカッションの %         協働・課題解決       グループで課題発見活動を協働することができる。       相互評価 20 % 20 %	参加することを通して、「ことば」をつくる実践をしていく。そして、多様な人と生きる多文化共生社会									5710	
「ことは」のあり方の未来像を描くことができる。			学生	生の授業	におけ	る到達目標	111111111111111111111111111111111111111	平価手段・方法	評価	比率	
分析力   まちの人と関わりながら情報収集をし、分析、考察することができる。	専門力	現代日本における「ことば」を様々な観点から考察し、社会状況から 「ことば」のあり方の未来像を描くことができる。							30	%	
コミュニケーションカ 他者に課題を分かりやすく説明し、話し合い検討することができる。ディスカッショ 20 % シ		まちの丿	しと関わり	ながら情報	以集をし、	分析、考察すること	がマキム			-	
「ガー・・・・・   グループで課題発見活動を協働することができる。		ロミュニケーシ 他者に課題を分かりやすく説明し、話し合い検討することができる。 ディスカッショ							20	%	
		グルーフ	プで課題発	見活動を協	る働すること	こができる。			10	%	
多様性理解力											
出 席 受験要件	出 席 受験要件								件		
合 計 100%				合	計			100%	6		

レポートで30%、ことばと社会に関する知識(事前・事後学習、発表資料)で40%、企画立案活動(発表、ディスカッション、自己相互評価)で30%、で評価する。各フィードバックは授業内に行う。

## 授業の概要

本演習では、実際にまちに関わり、参加することを通して、学びをつくりながら「ことば」を考えていく。そしてフィールドにおける「ことば」を提案・発表し、社会につなげることをめざす。発表等に対するフィードバックは授業内で行う。課外でグループ活動を行うことがある。スケジュールは変更することがある。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

### 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:適宜ハンドアウトを配布する

参考書:演習内で指定する。

指定図書:山崎亮『まちの幸福論 コミュニティデザインから考える』NHK出版

### 授業外における学修及び学生に期待すること

このゼミは、様々な観点から「ことば」「社会」「学び」について考え、ことばをつくり、人と社会をつなぐ実践をしてみたい学生を対象としています。実際にまちや色々な人と関わる経験をしたい人、主体的にプロジェクトができる学生に向いています。留学生が受講する場合は、自分のことばでまとめながらディスカッション運営できること、文献を読み、レポート執筆できる日本語力が必要です。

回	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法論の説明 目標、スケジュール、課題の確認	予習:自己紹介、「日本 語」のイメージを話せる ようにしてくる
2	省察・個人面談	専門演習 I での学びを省察し、今学期の見通し、個人 目標をたてる。	<ul><li>予習:個人ポートフォリオの作成</li><li>復習:個人ポートフォリオの見直し</li></ul>
3	ワークショップ①	外部講師によるワークショップ 「まちをつくるとは」	予習:ハンドアウトを読ん でくる 復習:内容の要約
4	文献購読②	コミュニティデザインに関する基礎文献購読	予習:ハンドアウトを読ん でくる 復習:内容の要約
5	文献購読②	ソーシャルインクルージョン、「ことば」に関する基 礎文献購読	予習:ハンドアウトを読ん でくる 復習:内容の要約
6	フィールドワーク①	フィールドワーク準備	予習:ハンドアウトを読んでくる
7	フィールドワーク②	フィールドワーク実施	予習:ハンドアウトを読ん でくる 復習:内容の要約
8	フィールドワーク③	フィールドワーク実施	予習:ハンドアウトを読ん でくる 復習:内容の要約
9	これからのことばをつくる ①	これまで学んできたことを参考に、自分たちの「こと ば」を考え企画立案、作成する。	予習:ハンドアウトを読ん でくる
10	これからのことばをつくる ②	① で観察したことから課題を発見し、解決方法を探る。	予習:報告を書いてくる 復習:課題解決方法を考え る
11	これからのことばをつくる ③	②の解決方法にもとづいて、企画立案し、企画に適し たあらたなことば、方法等を考える。	予習;企画を考えてくる 復習:ルールを確認
12	これからのことばをつくる ④	③の企画にもとづき、企画の成果物を作成する	予習;企画成果物の作成
13	これからのことばをつくる ⑤	企画成果物の発表を行い、相互評価を行う	予習:企画成果物発表準備
14	これからのことばをつくる ⑥	④を受けて企画成果物の修正、再構成を確認し、完成 させる。レポートの概要を説明し、作成の準備をする。	予習;企画成果物の修正
15	ふりかえり	今学期のふりかえりと協働省察を行う	予習:個人ポートフォリオ 記入 レポートの作成

授業科目(ナンバ	リング)	専門	寅習 II A (CF	301)	担当教員		城前奈美			
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期 必修・選択		必修		
	授業のねらい									
テーマ:国家資格『国内旅行業務取扱管理者』試験の「旅行業法」「約款」をマスターする。 国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指したゼミとする。 特に旅行業法、約款に力を入れる。国家試験は9月上旬										
ホスピタリティ を構成する能力		学生	生の授業	におけ	る到達目標	in E	平価手段・方法	評価比率		
専門力		最終的な目標である国内旅行業務取扱管理者試験のうちの「旅行業 法」と「約款」で 60 点以上取得できる。								
情報収集、分析力	、 旅行業のみならず宿泊業、運輸交通業などかなり専門的な分野まで その法規及び実務を理解する。 模擬試験							40%		
コミュニケーシ ョン力	る。また、積極的にセミ以外でも仲間ともに目主的な勉強会ができ							20%		
協働・課題解決 力	ニースに応えた旅行業の在り万を旅行業法と共に考えることができ」						ブループディス カッション	10%		
多様性理解力										
	出 席 受験要体									
			合	計			100%	6		

学生が持ち回りで講師を務め、担当部分の課題を準備し、講義する。その際に、出された質問に対して回答する。 これらグループディスカッションの取り組みを評価する(評価比率 30%)。また、模擬試験を 3 回受験し、この点数を 基に評価する(評価比率 70%)。各課題のフィードバックは、授業時に適宜行う。

## 授業の概要

本専門演習では国内旅行業務取扱管理者試験の合格をめざし、1年次から開講されている「旅行業法・約款」の授業で学習したものを範囲として、学生主体で問題を解きながら進めていく。形式としては勉強会を考えてほしい。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

## 教 科 書 · 参 考 書

教科書:『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所 指定図書:『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所

#### 授業外における学修及び学生に期待すること

欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。 単位を既に取得していても、「旅行業法・約款」の授業には出席して欲しい。国試合格のためにも、模試を受験する こと(模試費用は 5.500 円)。なお、国家試験を受験しない者には特段の理由がない限り、単位を出さないので注意し てください。

□	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	前期の進め方を説明する。	ルーブリック入力
2	省察、個人目標の設定	前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ルーブリック入力
3	旅行業法(1)	法の目的、旅行業の定義 登録制度、登録拒否、登録変更	旅行業法 第 1~6 条の予習、復習
4	旅行業法(2)	営業保証金制度、旅行業務取扱管理者	第 7~11 条の予習、復習
5	旅行業法(3)	料金掲示、旅行業約款、取引条件説明、書面交付	第 12 条の該当箇所の予 習、復習
6	旅行業法(4)	外務員、広告、標識、企画旅行の円滑な実施措置	第 12 条の該当箇所の予 習、復習
7	旅行業法(5)	旅程管理業務、禁止行為、旅行業者代理業	第 12~14 条の該当箇所の 予習、復習
8	旅行業法(6)	業務改善命令、旅行業協会、旅行サービス手配業	第 18 条~該当箇所の予 習、復習
9	旅行業約款(1)	募集型企画旅行の部 第1章総則、第2章契約の締結	募集型企画旅行の部 第 1~12 条の予習、復習
10	旅行業約款(2)	募集型企画旅行の部 第3章契約の変更、第4章契約の解除	募集型企画旅行の部 第 13~16 条の予習、復習
11	旅行業約款(3)	募集型企画旅行の部 第4章契約の解除、第5章団体契約、第6章旅程管理	募集型企画旅行の部 第 13~26 条の予習、復習
12	旅行業約款(4)	募集型企画旅行の部 第7章責任	募集型企画旅行の部 第 27~28 条の予習、復習
13	旅行業約款(5)	募集型企画旅行の部 第7章責任 受注型企画旅行の部	募集型企画旅行の部 第 29~30 条の予習、復習 受注型企画旅行の部 第 1~7 章の予習、復習
14	旅行業約款(6)	手配旅行契約の部、旅行相談の部	手配旅行契約の部 第 1~7 章の予習、復習 旅行相談の部の予習、復習
15	運送・宿泊約款	運送約款、宿泊約款の概要と重点ポイント	運送約款、宿泊約款の予 習、復習

授業科目(ナン/ グ)	ベリン	専門	演習 II A (CF	·301)	担当教員		城本 高輝		
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修	
授業のねらい									
観光業界は、新型コロナウィルス感染拡大により、多くの企業が経営危機を迎えています。しかし、新型コロナウィルス感染が終息に向かえば、多くの人が観光に出かけ、観光業界の経営状況も大きく変わることが予想されます。この授業では、九州の観光地等での地域連携活動を通して、観光の魅力を理解し、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を養い、社会人に向けた基礎力を身に付けます。									
ホスピタリ ティを構成 する能力	学生の授業における到達目標 方法							評価比率	
専門力	学内教育を中心として基礎的な手法を学び、あらゆる部分で専門的 な経験が身に付きます。						• 質疑応答	30%	
情報収集、 分析力		、エクセル 身に付きま		ポイントな	ど基本的な情報処理		・課題レポ ート	40%	
コミュニケ ーション力	しゃりつまは土がもにったナナ					・自己表現 力	20%		
協働・課題 解決力	観光全般についての理解力と創造力が身に付きます。深く考えることで自らの思考力を磨くことができます。 ・発表内容						・発表内容	10%	
多様性理解力									
			出	席			受験要	<b>E</b> 件	
			合	計			100%	/ <sub>0</sub>	

グループ内でのコミュニケーション力と情報収集、分析力に対する達成率を重視します。課題レポートも随時行い、全員の発表会も開催します。授業の出席率、授業態度、および学習実績を参考としながら評価します。

### 授業の概要

この授業では、地域連携活動について計画的に取り組みます。また、授業では、行政の施策、インターネット情報、書籍を参考にしながら九州や長崎の各地域のあり方について学習します。実践的な産官学連携活動や様々な分野の方とのコミュニケーションを通して、「社会人基礎力」を身に付けます。また、学習した知識を活用して、プレゼンテーション、報告書作成に取り組みます。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。

### 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:きほんを学ぶ世界遺産100世界遺産検定3級公式テキスト

参考書:世界遺産検定公式過去問題集 3·4級 2021 年度版

準備学習は、様々な地域連携活動を調査し、理解することです。新型コロナウィルス感染防止の観点から、オンライン、対面、現地でのフィールドワーク等の様々な手法で学習することとなります。また、企画書などの表現力、プレゼンテーション力の向上を意識した学習も必要です。この授業を通して、自分の将来ビジョンを自分でデザインしていくことを期待します。

回	テーマ	授業の内容	予習•復習
1	全体の流れを説明	本講座の概要について説明します。さらに全体の スケジュールを説明します。	シラバスを熟読する。
2	個別面談①	前学期の省察を行う。個人目標設定のための面談 を実施する。	面談のための準備
3	個別面談②	前学期の省察を行う。個人目標設定のための面談 を実施する。	面談のための準備
4	地域連携活動ミッション 提示	ミッションを理解し、魅力のある地域連携活動に ついて考える。	インターネット、ガイ ドブックなどで情報収 集する。
5	地域連携活動①グループ ワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグルー プで議論する。	リーダーの下で、議論 を整理する。
6	地域連携活動②グループ ワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグルー プで議論する。	リーダーの下で、議論 を整理する。
7	地域連携活動③グループ ワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグルー プで議論する。	リーダーの下で、議論 を整理する。
8	就職ガイダンス	就職について皆さんと考えます。	個別面談を振り返る。
9	地域連携活動④グループ ワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグルー プで議論する。	リーダーの下で、議論 を整理する。
10	地域連携活動⑤グループ ワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグルー プで議論する。	リーダーの下で、議論 を整理する。
11	地域連携活動⑥グループ ワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグルー プで議論する。	リーダーの下で、議論 を整理する。
12	地域連携活動①フィール ドワーク	ミッションに応じた地域連携活動についてフィー ルドワークする。	リーダーの下で、現地 活動をする。
13	地域連携活動②フィール ドワーク	ミッションに応じた地域連携活動についてフィー ルドワークする。	リーダーの下で、現地 活動をする。
14	地域連携活動①プレゼン テーション	グループごとに地域連携活動のプレゼンテーションを行う。	グループごとに事前に プレゼンテーションを 準備する。
15	地域連携活動②プレゼン テーション	グループごとに地域連携活動のプレゼンテーションを行う。	グループごとに事前に プレゼンテーションを 準備する。

授業科目(ナンバ	バリング)	専門演習 II A (CF301)		担当教員				
展開方法	<del>.</del>	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
			授美	きのねら	o V			アクティブ・ ラーニング の 類 型
論やケーススタ	ディを踏  得を目指	いまえながら、 いすとともに、	、観光分!	野でも求め	をテーマとした授うられる円滑な異文化 アや文化要素を取	化コミュニケー	ーションの知	4560
ホスピタリテ ィを構成する 能力		学生の授	業にま	おける到	達目標	評価手具	没・方法	評価比率
専門力	用語を理	・異文化コミュニケーションについての基礎理論や英語の専門 用語を理解し、具体例を挙げて簡潔に説明できる。 ・調査した内容をまとめ、専門知識を活用した発表ができる。					30%	
情報収集、分析力	できる。	コミュニケーシ た内容をレポ <b>・</b>			事例を収集し、分類できる。	・レポート		40%
コミュニケー ション力	・テーマル	こ対しアサージ	ティブなデ	゚゚゚゚゚゚゚゚゚゙゚゚゚゙゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	ンを実践できる。	・ディスカッショ	ョン	20%
協働·課題解決力		プワークによっ さすことができ	•	られたテー	マに対する解決法	・グループワー	10%	
多様性理解力								
		出					受験要件	
		合	計				100%	

- ・プレゼンテーションによって、調査した内容について、習得した専門知識を活用した発表を行う。(30%)
- ・レポートを課し、専門知識の理解度やスタディスキルの習得度を評価する。(40%)
- ・ディスカッションにおけるコミュニケーション力を評価する。(20%)
- ・授業時の学修状況やグループワークの参加度合を評価する。(10%)
- ・レポート、プレゼンテーション、グループワークに対して、ポートフォリオおよび授業時にフィードバックを行う。

## 授業の概要

この授業では、異文化コミュニケーションのケーススタディや異文化トレーニングに関する英語教材を使用し、英語を通じて異文化コミュニケーションの理論やスキルの習得を図る。また、レポート作成、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションによって、スタディスキルやコミュニケーションスキルの向上も図る。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

#### 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:『Speaking of Intercultural communication』Peter Vincent 著(南雲堂) 参考書:『異文化トレーニング:ボーダーレス社会を生きる』八代京子 他著(三修社)

指定図書:『Speaking of Intercultural communication』Peter Vincent著(南雲堂) 授業外における学修及び学生に期待すること

- ・授業では、遅刻、無断欠席、途中退室などない積極的な参加を強く求めていく。
- ・日常生活の中で、文化背景の異なる他者との異文化コミュニケーションや文化比較に強い関心を持ってもらいたい。

口	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	前学期の省察と本学期の目 標設定、面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期 の目標を設定する、面談実施	・予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き ・復習:本学期の目標設定の清書
2	Communication ①	文化とコミュニケーションの関係についての 解説、ディスカッション	・予習:Unit 1 Reading, Activity 1 & 2 ・復習:Unit 1 Reading, Activity 1 & 2
3	Communication ②	文化とコミュニケーションの関係を題材としたペアワーク、グループワーク	・予習: Unit 1 Activity 3-5 ・復習: Unit 1 Activity 3-5 ポートフォリオの回答
4	Culture ①	Hall の理論、文化の島についての解説、ディスカッション	・予習:Unit 2 Reading, Activity 1 & 2 ・復習:Unit 2 Reading, Activity 1 & 2
5	Culture ②	Hall の理論、文化の島を題材としたペアワ ーク、グループワーク	・予習: Unit 2 Activity 3-7 ・復習: Unit 2 Activity 3-7 ポートフォリオの回答
6	Nonverbal Communication ①	非言語コミュニケーションについての解説、 ディスカッション	・予習:Unit 3 Reading, Activity 1-3 ・復習:Unit 3 Reading, Activity 1-3
7	Nonverbal Communication ②	非言語コミュニケーションを題材としたペア ワーク、グループワーク	・予習: Unit 3 Activity 4-8 ・復習: Unit 3 Activity 4-8 ポートフォリオの回答
8	Communicating Clearly ①	コミュニケーションスタイルについての解 説、ディスカッション	・予習:Unit 4 Reading, Activity 1-3 ・復習:Unit 4 Reading, Activity 1-3
9	Communicating Clearly ②	コミュニケーションスタイルを題材としたペアワーク、グループワーク	・予習:Unit 4 Activity 4-8 ・復習:Unit 4 Activity 4-8 ポートフォリオの回答
10	Culture and Values ①	非言語コミュニケーションについての解説、 ディスカッション	・予習:Unit 5 Reading, Activity 1-3 ・復習:Unit 5 Reading, Activity 1-3
11	Culture and Values ②	非言語コミュニケーションを題材としたペア ワーク、グループワーク	・予習 : Unit 5 Activity 4-7 ・復習 : Unit 5 Activity 4-7 ポートフォリオの回答
12	Culture and Perception ①	文化と知覚の関係についての解説、ディス カッション	・予習:Unit 6 Reading, Activity 1-3 ・復習:Unit 6 Reading, Activity 1-3
13	Culture and Perception ②	文化と知覚の関係を題材としたペアワーク、 グループワーク	・予習: Unit 6 Activity 4-6 ・復習: Unit 6 Activity 4-6 ポートフォリオの回答
14	レポート作成	テーマに関するレポート作成	<ul><li>・予習:レポートの下調べ</li><li>・復習:レポートの仕上げ、プレゼン資料の作成</li></ul>
15	プレゼンテーション	テーマに関する発表	・予習:プレゼンのリハーサル ・総復習、レポート提出

授業科目(ナンバ	リング)	ず) 専門演習 II A (CF301)		グ) 専門演習 II A(CF301) 担当参		担当教員			竹田 文雄 (実務経験のある教員)		女員)
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修			
	授業のねらい										
を、担当教員の実	務経験と 本演習で	現場目線での学修と	お織り込み 実践を通し	ながら、メ て得るいろ	まなにが起きている ンバー全員で考察し いろな「気付き・§ いきます。	、 社会全般~	への造詣を深め	12012			
ホスピタリティ を構成する能力		学生	生の授業	におけ	る到達目標	評	価手段・方法	評価比率			
専門力	1	プ討議の実! トプットの		場の取り網	<b><sup>裏</sup>めができる。</b>	•	討議参画	30%			
情報収集、分析力					穿を活用できる。 それら情報の取捨	-	プレゼンテーシ ン	50%			
コミュニケーン	(他の力				■ができる。 Ě信、双方向の意見	交換と・『	討議参画	20%			
協働・課題解決 力											
多様性理解力	多様性理解力										
			出	席			受験要	件			
			合	計			100%	ó			

## 評価基準及び評価手段・方法の補足説明

何事にも積極性を求めます。特に、「ホームワークの発表(シェア)」、「意見出し」。「ディスカッション」の場での 積極的な発言と事前準備の有無に着目します。週次の演習を「どのように準備して、どの様に考えて、どの様に表現 できたか?」の観点にて、「成長度合い」、「参画意識」、「プレゼンテーション等のアウトプット成果」の3つの要素を 主な評価軸とします(評価比率は上掲)。諸々のフィードバックは、授業時間内に、またはポートフォリオを用いて適 宜実施していきます。

#### 授業の概要

担当教員の海外旅行事業実務経験と知見を踏まえた実践的授業。毎週その一週間ごとに一番印象に残る報道トピック スを個々でまとめてきてもらいます(=ホームワーク課題)。PowerPoint で「まとめ」シートを作成し、全員がそのホ ームワークをゼミでシェアして意見を出し合い、週次の取りまとめを実施します。なお授業スキームは主に「走りなが ら考えていく」形とします。学外調査等の予定による授業振り替えの可能性があり、また、より良い効果が期待出来る 際は事前通知の上でテーマ補正を行います。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とします。

## 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書/参考書:特に指定しません。

指定図書:『世界一訪れたい日本のつくりかた (新・観光立国論 実践編)』: デービッド・アトキンソン 東洋経済新報社

#### 授業外における学修及び学生に期待すること

この演習のキーワードは社会への「好奇心」です。情報収集とその取捨選択を厭わず、何故そのような現象が起こ っているのか? の解答を自分で求めようとする意識や、自身で出した解答を積極的にグループディスカッション等 で発表したいと思う積極性など、学生の皆さんの自発的な積極性を最も尊重します。そして、この様な力を身に付け たいと思う学生の参加を期待します。なお毎週のホームワークを必ず完遂させる旨を必須とします。

口	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	全体の導入	この一年で何を目指すのか?の確認。 演習全体の方向性の説明とメンバーの自己紹介、等。	予:シラバスの読込み。 3分自己紹介の準備。 復:何を目指すのか?を あらためて考える。
2	個人面談・目標設定	演習開始に際するメンバー個々の興味の確認。個人目標の設定、等。	予:目指す事を5分間で 発表する為の準備。 復:個人目標の確定。
3	課題想起・まとめ(1)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。①	予:ホームワーク完成 復:個人発表のレビュー
4	課題想起・まとめ(2)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。②	予:ホームワーク完成 復:個人発表のレビュー
5	課題想起・まとめ(3)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。③	予:ホームワーク完成 復:個人発表のレビュー
6	課題想起・まとめ(4)	3週目から5週目のレビュー実施。	予:レビュー取り纏め
7	佐世保・小値賀研究(1)	『「海風の国」観光マイスター試験』対策。①	予:テキスト読み込み
8	課題想起・まとめ(5)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。④	予:ホームワーク完成 復:個人発表のレビュー
9	課題想起・まとめ(6)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。⑤	予:ホームワーク完成 復:個人発表のレビュー
10	課題想起・まとめ (7)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。⑥	予:ホームワーク完成 復:個人発表のレビュー
11	課題想起・まとめ(8)	8週目から10週目のレビュー実施。	予:レビュー取り纏め
12	佐世保・小値賀研究(2)	『「海風の国」観光マイスター試験』対策。②	予:テキスト読み込み
13	グループスタディ(1)	前期のサマリーを制作。 ※報告書仕上げ。	予:報告書仕上げの準備。
14	グループスタディ(2)	前期のサマリーを制作。 ※プレゼンテーション実施。 ※講評	予:プレゼンテーションの 準備。
15	まとめ	総括	予:個人総括の仕上げ

リング)	専門	演習ⅡA	(CF301)	担当教員		森尾真之			
	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修		
授業のねらい									
さまざまな地域課題についての課題と各地域の共通点についてSDGsの視点を通した持続可能性をテーマに理解します。そのうえで地域の観光業の実態を学び、地域課題の解決につながる様々な事業展開の事例研究を通して、地域観光まちづくりの事業テーマ研究を行います。									
	学 生	の授業し	こおける	到達目標	評価	5手段・方法	評価比率		
・地 につ ・情	域課題解決 ついて考察 <sup>・</sup> 報発信につ	のための! することが いて商品?	事例研究を できる。 流通やデジ	通して、その背景 と タルマーケティンク	レポ	ート作成	30%		
例信	青報の収集・	や、関連する			· trang   授業		50%		
• 課	題に積極的				がで   フレ		20%		
協働・課題解決 力									
多樣性理解力									
		出	席			受験要件	‡		
		合 譚	<del> </del>			100%			
	課す通 ・・にもの 域例こ ・・ 旅地ン情様   対情と   高調	課題についての課題を す。そのうえで地域 通して、地域観光を 学生 ・旅行業及び額・地域について ・情報発信について ・情報発信について がでいた。 ・情報をな手法に 域内の旅行業 の様々な手法に ができる。 ・論点が整理	演習 単位数 授	渡習 単位数 1単位 授業のねぎ 投業のねぎ 接撃のねぎ 接撃のねぎ 接撃の ねぎ で の の の の の の の の の の の の の の の の の の	渡習 単位数 1単位 開講年次・時期 授業のねらい 授業のねらい に   要題についての課題と各地域の共通点について   SDGs の視す。そのうえで地域の観光業の実態を学び、地域課題の解話して、地域観光まちづくりの事業テーマ研究を行います。   学生の授業における到達目標   ・旅行業及び観光業の成り立ちを理解する。   ・地域課題解決のための事例研究を通して、その背景とについて考察することができる。   ・情報発信について商品流通やデジタルマーケティングの様々な手法について理解することができる。   域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検言ことができる。   ・論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる・課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することきる。	演習 単位数 1単位 開講年次・時期 3年・前期 授業のねらい   提題についての課題と各地域の共通点について SDGs の視点を通した持続す。そのうえで地域の観光業の実態を学び、地域課題の解決につながる相通して、地域観光まちづくりの事業テーマ研究を行います。   学生の授業における到達目標   ・旅行業及び観光業の成り立ちを理解する。 ・地域課題解決のための事例研究を通して、その背景と効果について考察することができる。 ・情報発信について商品流通やデジタルマーケティングなどの様々な手法について理解することができる。 域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。 ・論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。・課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。 ・課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。	渡習 単位数 1単位 開講年次・時期 3年・前期 必修・選択 授業のねらい  提題についての課題と各地域の共通点についてSDGsの視点を通した持続可能性をテす。そのうえで地域の観光業の実態を学び、地域課題の解決につながる様々な事業展通して、地域観光まちづくりの事業テーマ研究を行います。  学生の授業における到達目標 評価手段・方法  ・旅行業及び観光業の成り立ちを理解する。 ・地域課題解決のための事例研究を通して、その背景と効果について考察することができる。 ・情報発信について商品流通やデジタルマーケティングなどの様々な手法について理解することができる。  域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。 ・論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。・課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。 ・課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。		

「授業への積極的姿勢」(50%) は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。

「レポート」(30%) は内容の論理性・独自性を重視して判断します。

「プレゼンテーション」は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価します。

フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。

#### 授業の概要

SDGs の基礎知識の習得から地域課題に関する認識を持ったうえで、地域のおける旅行業・観光業の課題を考え、あるべき観光地の方向性についてグループで調査、議論を行う。地域における観光まちづくりや観光事業者の現状や観光客との関係性を理解し、それぞれにおける課題の論点を洞察しながら、新しい時代の地域観光の在り方について、その成果をメンバーとともに研究・発表を行います。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とします。

### 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書/参考書:『図解でわかる SDGs』平本督太郎 (メイツ出版) 指定図書:『持続可能な地域の作り方』 第 裕介 (英治出版)

## 授業外における学修及び学生に期待すること

本演習では社会課題を持続可能な視点で考え、「規範的・倫理的判断力」の獲得を目標に、多くの学外機関の方との 連携や協力の中で自らの考えを深めていくことが求められます。新しい時代の社会に貢献するアイデアを実現させる という高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の 受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。

□	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	(予習) 事前にシラバ ス及び演習概略に目を 通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定をおこなう。	(予習) 自身のこれま での取り組や興味・関 心をまとめてくる。
3	SDGs の 基礎知識習得①	SDGs の基本や取り組む意味について	(復習)学習内容と教 科書の読み直し
4	SDGs の 基礎知識習得②	SDGs の基本的な概念(17 のテーマ)、用語について学ぶ※専門演習 I の既修者が中心となって進める。	(復習) 学習内容と教 科書の読み直し
5	SDGs の 基礎知識習得③	SDGs のテーマごとの実態について調べて発表する	(予習)「17 のテーマの うちから一つ選んで実 態を調べる」
6	SDGs の 基礎知識習得④	各グループの発表と振り返り	(復習)自分の興味・ 関心をレポートにまと める
7	SDGs の 基礎知識習得⑤	地域課題の連鎖について考える	(復習) これまでの学 びから自分の興味関心 をまとめる。
8	SDGs と観光①	地域課題の解決手段としての地域観光の課題と持 続性について考える	(予習) 県内の観光資 源についてまとめてく る。
9	SDGs と観光②	テーマに従って地域観光の課題について調べて発 表する。	(復習)課題から具体 的な論点を考える。
10	グループワーク①	関連データの収集、調査内容の整理・検討および スケジューリング確認。	(予習) 調査対象の絞 り込み。
11	グループワーク②	フィールドワーク	(予習)調査ポイント の確認
12	グループワーク③	グループごとの進捗・経過の発表	(予習)発表内容の論 点確認
13	グループワーク④	担当教員と各グループ別に企画案の内容確認・精査	(予習) 自分の調査分 野での論点を確認。
14	グループワーク⑤	プレゼンテーション準備	(予習) 発表準備
15	成果発表	グループごとに企画案プレゼンテーション。 意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習)グループでの 発表の確認

授業科目(ナンバ	リング)	車	評買ⅡA	(CF301)	担当教員		山内 美穂			
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・ 前期	必修・選択	必修		
	授業のねらい									
して、わかりやす う一つは、ことば	この演習のねらいは二つあります。一つは日本語の言語知識(しくみ)を理解し人に説明することを通して、わかりやすく伝える力を養うことです。そのため、授業は履修者による発表を中心に進めます。もう一つは、ことばが地域社会や観光の場面でどのように使われているかを知り、課題をみつけ、具体的な方策を考える力を鍛えることです。									
ホスピタリティ を構成する能力		:	学生の授業	きにおけ	る到達目標		評価手段・方法	評価比率		
専門力	ことだ	ぶできる			、、わかりやすい資 い資料をつくること		発表資料	30%		
情報収集、分析力	テーマ	マに沿っ	て調査や分析	斤をし、分か	ることができる。 いりやすく説明でき ポートを書ける。	る。	発表 レポート	30% 20%		
コミュニケーション力	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1							10% 10%		
協働・課題解決 力	<b>国解决</b>									
多様性理解力										
			出	席			受験要	 件		
			合	計			100%	<u>′</u> 0		

自分が担当する箇所の発表で 30%、レポートで 20%、発表資料で 30%、発表後のディスカッションへの参加度で 10%、ゼミ仲間との協働で 10%を評価します。発表に対しては授業中または個別にコメントしフィードバックします。

### 授業の概要

前半は教科書を読みそれを簡潔にまとめ発表する練習をします。毎回の授業の予習として、教科書の各テーマについてよく読んでください。発表者は担当箇所のテーマの資料を作成して説明し、発表者以外の人はコメント・質問し、全員でディスカッションします。後半は、外部講師のレクチャーやフィールドワークを通して地域社会や観光場面における「ことば」について知り、課題をさぐります。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。

# 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書: 庵功雄ほか『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版,2020 参考書: 野田尚史ほか『日本語を分析するレッスン』大修館書店,2016

指定図書:加藤好嵩『「やさしい日本語」で観光客を迎えよう』大修館書店,2019

### 授業外における学修及び学生に期待すること

この演習は、日本語の言語知識(しくみ)を体系的に学びたいと考えている人や、ことばと社会についての分析力を付けたい人を対象にします。留学生は、教科書の内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。 発表者は資料や教科書の担当箇所をしっかり理解し、よく準備をした上で発表にのぞんでください。発表者以外の人もしっかり該当箇所を読みこみ、質問などの準備をして授業にのぞんでください。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミの仲間、お互いを知る。 授業の進め方、発表の方法について説明。	復習:配布プリントを読む。
2	前学期の省察と本学期の 目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き。 復習:本学期の目標設定の清書。
3	日本語の音と形(1)	日本語の発音や特殊拍などについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習:教科書 P2-9 を読む。発表 担当者はレジュメを準備 復習:発音や特殊拍の課題。
4	日本語の音と形 (2)	日本語のアクセントや短縮語について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習:教科書 P10-20 を読む。発 表担当者はレジュメを準備 復習:アクセントの課題。
5	日本語の文法(1)	日本語の品詞や活用について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習:教科書 P22-29 を読む。発 表担当者はレジュメを準備 復習:アクセントの課題。
6	日本語の文法(2)	使役、受け身、テンスについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習:教科書 P30-39 を読む。発 表担当者はレジュメを準備 復習:アクセントの課題。
7	日本語の文法 (3)	アスペクト、モダリティなどについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習:教科書 P40-50 を読む。発 表担当者はレジュメを準備 復習:アクセントの課題。
8	地域社会とことば(1)	地域(佐世保市)の国際政策について理解する。	予習:配布プリントを読む。 復習:自身の出身地の国際政策に ついて調べる。
9	地域社会とことば(2)	地域の外国人のための取り組み (ゲストスピーカー・実務家)	予習:配布プリントを読む。 復習:お話の感想を書く。
10	地域社会とことば(3)	地域の日本語支援の現場を見学 (学外学習)	予習:配布プリントを読む。 復習:地域のことばの課題を考え てレポート。
11	観光とことば (1)	インバウンドに大人気の地方の旅館の取り組み (ゲストスピーカー・実務家)	予習:配布物「やさしい日本語で 観光客を迎えよう」を読む。 復習:お話の感想を書く。
12	観光とことば(2)	フィールドワーク準備	予習:配布物「観光とことば」を 読む。 復習:フィールドワーク準備
13	観光とことば (3)	フィールドワーク	予習:フィールドワーク準備 復習:フィールドワークのまとめ
14	観光とことばの調査発表	観光とことばについて調べたことを発表	予習:発表準備 復習:発表のピア評価
15	まとめ	これまでの学習項目について復習し、後期の期末 研究に向けたプランについてディスカッション。	予習:興味をもったテーマについて発表の準備。

授業科目(ナンバ	リング)	専	門演習ⅡA	(CF301)	担当教員	Bro	Brendan Van Deusen			
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修		
	授業のねらい									
technical, academ Development Goal	This course provides an introduction to research skills in English. Working in stages, students learn basic technical, academic and communication skills necessary for researching a topic related to UN Sustainable Development Goals (SDG's). Specifically, students will learn about how to find information, how to summarize, and how to use sources to clearly write about a topic.									
ホスピタリティ を構成する能力		学生	の授業に	こおける	到達目標	評価=	手段・方法	評価比率		
専門力	Students			•	ormatted research pa rch paper based on a	topic	Report	10% 30%		
情報収集、分析力		s will be a			rganize information ability	from Ass	ignments	50%		
コミュニケーシ ョン力		s will be abl			t a research topic in	a way In-class	engagement	10%		
協働・課題解決 力							%			
多様性理解力	多様性理解力									
		-	出 席	± 1			受験要件			
			合 計	+			100%			

In-class engagement (Group discussions and mini-presentation): 10%

Assignments (Complete weekly assignments and preparation work for projects): 50%

Report (Complete a short research paper which uses sources to address a given topic) 40%

\* All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook (<a href="https://niu.9learn.net/">https://niu.9learn.net/</a> and Google Classroom)

### 授業の概要

In the first few classes, students discuss how to find information about a topic and present their findings. From this, they move on to preparing for a research paper. Working in stages, students research a topic in order to answer a specific research question. Students will discuss and present their ideas as well as write. Students will improve their English reading through extensive reading on Xreading. この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教 科 書 · 参 考 書

教科書: XReading 6 month license

参考書: J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」

指定図書: Extensive reading books from the library

- 1. This course is conducted in English.
- 2. Students are required to have a tablet or notebook computer connected to NIU WIFI.
- 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.

口	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	Introduction	<ul> <li>Introduce the course and review the syllabus</li> <li>Students learn about each other</li> <li>What is research? Previous experience</li> </ul>	Read syllabus in advance Xreading
2	Seminar business	<ul> <li>Rubric hyoka, 100 book policy (what &amp; how?),</li> <li>Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule,</li> <li>attendance system, NIU email, standard rubric for</li> <li>academic essays</li> </ul>	Complete the rubric and input any books on Manaba. Xreading
3	Personal goal setting	<ul> <li>Conference with seminar teacher about personal goals for the semester</li> <li>Check Rubric Hyoka and 100 Book status</li> </ul>	Students meet with teacher about rubric. Xreading
4	Finding sources	<ul><li>What is a source?</li><li>High vs low quality sources</li><li>What is plagiarism?</li></ul>	Students prepare sources about their topic. Xreading
5	Evaluating sources	<ul> <li>Evaluating students' sources</li> <li>Further information about plagiarism</li> </ul>	Students find further sources based on teacher feedback. Xreading
6	Library tools for sources	<ul> <li>Visit the library to investigate tools for investigating sources</li> </ul>	Students find one research journal source and bring it to the next class. Xreading
7	Using sources 1	<ul> <li>Note taking skills for sources</li> </ul>	Students take notes on sources and bring to the next class. Xreading
8	Using sources 2	<ul><li>Summarizing information</li><li>Paraphrasing information</li><li>In-text citations</li></ul>	Students write one sentence / paragraph summaries of their sources. Xreading
9	Using sources 3	<ul> <li>Students receive feedback about their writing and improve</li> <li>In-text citations and references section</li> </ul>	Students improve their summaries for next class. Xreading
10	Format of research papers	<ul> <li>Understanding research topics and basic formats for research papers</li> <li>Students organize their notes into a coherent outline</li> </ul>	Make an outline which answers the topic question. Xreading
11	Draft paper first half	Workshop on the first half of students' research paper	Write the first half of the paper. Xreading
12	Draft paper second half	Workshop on the second half of students' research paper	Improve first half. Write the second half of the paper. Xreading
13	Final paper formatting	<ul> <li>Best practices for formatting academic papers</li> <li>Check 100 Book status</li> </ul>	Improve the second half. Adjust formatting. Xreading
14	Mini-presentation	Students present and discuss the topic of their papers	Give presentation about topic and discuss. Xreading
15	Wrap-up	Students receive feedback on their final papers	Receive feedback about paper. Make final changes. Xreading

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	浦郷 淳			
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	3年・前期 必修・選択		
	按⇒	業のねら	5 LA			アクティブ・ラーニング		
		1文 🦻	₹ V) 4a E	) V'			の類型	

本演習のテーマは「現在の学校」である。現在の日本の小・中・高等学校が置かれている状況や問題点を討議していく。討議する中で、自らの問題意識を「問い」として設定し、必要な情報を収集し、分析し、自らの意見を表現できるようになることをねらいとする。指定された図書に関する不明な語義は各受講者①・②・③・で事前に学習したことを前提とし、受講者のプレゼンテーション・レジュメによる発表を演習の中心に置④・⑤く。必要な情報を得るための情報収集能力、伝えたいことを的確にまとめるための分析力や表現力、グループワークを通した協働的問題解決能力、発表に対して建設的な議論を進めるディベート力、議論を通して得た知見を整理する力、これらの力の養成を図りたい。

ホスピタリティ	学生の授業における到達目標	亚年壬卯 十分	<b>新年以</b> 泰
を構成する能力	サエッ以来におりる判定日保	評価手段・方法	評価比率
専門力	日本の現在の学校が置かれている状況を知り、文献を読み解くのに必 要な用語等を習得し、問題点を説明・指摘できる。	レジュメ 発表と議論	10% 15%
	発表を基に、自分の発表を再考し、分析することができる。	発表と議論 レポート	20% 20% 10%
コミュニケーシ ョン力	自らの問いと結論を明確にした上で、他の受講者と議論することができる。	発表と議論	15%
協働・課題解決 力	グループワークにおいて、問題点を焦点化することができる。	グループワーク	10%
多様性理解力			
	出席	受験要	件
	合 計	100%	0

#### 評価基準及び評価手段・方法の補足説明

- 評価については、レジュメの様式・内容を30%、発表とグループワーク・質疑応答・議論を60%、発表と議論の振り返りとなるレポートを10%の比率で評定する。なお、演習の無断欠席は減点の対象となる。
- レジュメは、①様式や引用のルールの遵守②問題点と結論、結論に至る根拠が明確に示されているか、の2点を中心に評定する。なお、レジュメの作成方法については演習中に指示をし、演習内で随時コメントする。
- グループワークは、①個々の問題点を出し合い②整理・分類できたかの2点を中心に評定する。
- 発表や議論は、①使用する語句が正確な意味で用いられていたか、②テーマに対して批判的・探究的態度で臨んでいたか、③発表・質疑・発言の内容が論理的なものになっていたかの3点を中心に評定する。
- レポートは、発表での質疑応答を経た修正ができているかどうかで評定する。レポートは、担当する回の発表終 了後に作成するものとし、提出方法等については授業内で指示する。

## 授業の概要

授業については、石井英真『流行に踊る日本の教育』に掲載されている論考を担当者がレジュメにまとめ、プレゼンテーションを用いて発表する。その発表を基に小グループで問題を焦点化し、全体での討議を行う。論考内の不明な用語については、各自で調べて理解しておくものとし、その理解を基に発表・議論に臨むものとする。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、80分とする。

## 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書・指定図書:石井英真『流行に踊る日本の教育』東洋館出版社 (2021) 参考書:奈須正裕『ポスト・コロナショックの授業づくり』東洋館出版社 (2020)

- 1. 担当外の論考も必ず読み、不明な語句は調べておくこと。また、関連資料及びニュース等には目を通しておくこと。
- 2. 議論については相互の意見を尊重し、建設的なものになるよう努めること。
- 3. 議論の中で出された意見等について個々に整理し、復習すること。
- 4. 留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。
- 5. 専門演習 ⅡA 終了後、夏期休暇中の課題として本1冊の講読を指定する(発表は専門演習 ⅡB)。

口	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。 受講者の問題意識等を共有する。	予) シラバスの確認
2	本学期の目標設定	本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別 面談を行う。	予) 本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	疑問点を意識する	教科書をめくって、不明な語句等を共有し、何を調べなければならないのか、学校で何が問題になっているのかを焦点化し、共有する。	予)教科書通読 復)理解できなかった語句 調べ
4	疑問点を共有する	学校で問題になっていることの概略を、持ち寄った資料で共有する。	予) 学校で問題になっていることを示す資料 復) 議論の振り返り
5	興味関心を高める	教科書の中から、発表担当者を決定する。報告手法(レジュメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など)を説明する。	予) 教科書通読と担当希望 箇所選び 復) 報告手法の確認
6	論考の講読①	教員が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論 する。 例)資質・能力ベースのカリキュラム改革	予)論考の講読・不明語句調べ 復)資質・能力について整理する
7	論考の講読②	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 個別化・個性化された学び	予) 論孝の講読あるいけい
8	論考の講読③	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例)対話的・協同的な学び	予)論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復)対話的・協同的な学び について整理する
9	論考の講読④	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議 論する。 例)プロジェクト型学習	予) 論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復) プロジェクト型学習に ついて整理する
10	論考の講読⑤	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議 論する。 例) インクルージブ教育	予) 論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復) インクルージブ教育に ついて整理する
11	論考の講読⑥	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例)教師による「研究」	予)論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復)教師による「研究」に ついて整理する
12	論考の講読⑦	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例)外国語「コミュニケーション」	予)論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復)外国語「コミュニケーション」について整理する
13	論考の講読⑧	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議 論する。 例)大学入試改革	予)論考の講読あるいはレジュメ作成・不明語句調べ 復)大学入試改革について 整理する
14	論考の講読⑨	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議 論する。 例)エビデンスに基づく教育	予) 論者の講読あるいはレ
15	まとめ	前期の授業の振り返りと夏季休暇中に講読する課題 本を決定する。夏季休暇後のスケジュールを確認す る。	予) 課題本を見つける 復) 議論を振り返る

授業科目(ナン/	ベリング)	演習 IIA	(CF301)	担当教員	江島 弘晃					
展開方法	展開方法			1 単位	開講年次・時期	3年・前期	月	必修・選択	必修	
	授業のねらい									
る。とくに、当該 進めていく。IIA	専門演習 IIA および IIB では運動生理学や健康科学に関する専門的知識を習得することを目的とする。とくに、当該分野における研究背景および進展状況を把握することで卒業論文を作成する準備を進めていく。IIA では分子運動生理学に関するテキストおよび原著論文の輪読を行うこと、また関連研究の情報収集および分析する能力を習得することに重視する。									
ホスピタリティ を構成する能力		学生	の授う	業におけ	ける到達目標		131	評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力		・ 運動生理学や健康科学に関する専門的知識を獲得すること ができる。 課題の遂行								
情報収集、分析力		•			最新の情報を原著 むことができる。	F論文等を通		情報収集	60%	
コミュニケーシ ョン力	・ディスできる。		ョンに	おいて自分	分自身の意見を述	べることが	•	他者の主張 を踏まえた 議論の展開	10%	
協働・課題解決 力										
多様性理解力	多様性理解力									
			出	席				受験要	件	
			合	計				100%	)	

# 評価基準及び評価手段・方法の補足説明

参考書を通して運動生理学に関する専門的な理解度を評価基準とする(評価比率:30%)。また、各自が設定した課題やテーマに関する先行研究や資料を選択し、それらを基にし、自身の考察を踏まえた適切な要約を作成していること(評価比率:60%)、数回の発表機会を通したプレゼンテーション・ディスカッションを適切に表現出来ているか否かも評価する(評価比率:10%)。授業の課題は、ポートフォリオを通して行う。

### 授業の概要

運動生理学に関するテキストや原著論文を輪読する。輪読の際、PC 等を用いた文書・表図作成またはスライド作成の技法を獲得する。輪読の決定、精読、資料作成は、担当者が事前(演習授業の時間外)に準備する。反転授業を視野に入れ、輪読の報告は担当者自身がプレゼンテーションによって行い、ディスカッションは参加者全員で行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。

### 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:特に指定しない

参考書:石井直方監訳「分子運動生理学入門 スポーツ医・科学書出版」(ナップ)ISBN:978-4-905168-59-1 指定図書:石井直方監訳「分子運動生理学入門 スポーツ医・科学書出版」(ナップ)ISBN:978-4-905168-59-1

#### 授業外における学修及び学生に期待すること

本演習を通してスポーツ科学・健康科学の研究分野に触れることで、自身の競技種目に反映できる、または疾病予防に向けた運動処方に応用できることを望む。また、本演習ではコミュニケーション能力、課題の取り組み、プレゼンテーション能力からディスカッション能力といった社会人の素養を獲得することを目指す。そのため、挨拶や時間厳守などの基本的な社会行動を守るとともに、授業欠席などの際には事前に担当教員に連絡することが望ましい。

旦	テーマ	授業の内容	予習•復習
1	オリエンテーション	<ul><li>・ 演習授業の進め方についての説明</li><li>・ 個別に学業などに関する面談を実施</li></ul>	予習:シラバスを熟読し理解する 復習:受講規則の確認
2	本学期の目標設定	・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を 設定する	予習:前学期の省察 復習:本学期の目標設定の確認
3	輪読の準備(1)	・ 教員による参考書・テキストなどの紹介	予習:参考書などの通読 復習:授業で輪読した箇所の復習
4	輪読の準備 (2)	・ 教員による輪読・発表 (当該研究分野における 起源又は最新の研究内容などの発表)	予習: PC の準備 復習:授業で紹介した研究内容に ついて復習
5	輪読(1)	・ 教員による輪読・発表 (テーマ・分子運動生理学入門)	予習:参考書の通読 復習:分子運動生理学の概念につ いて復習
6	輪読 (2)	・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・遺伝とスポーツ:背景と方法論)	予習:参考書の通読 第2章のレジュメ作成 復習:遺伝とスポーツの関連性に ついて復習
7	輪読 (3)	<ul><li>担当者による輪読・発表 (テーマ・シグナル伝達と運動適応)</li></ul>	予習:参考書の通読 第3章のレジュメ作成 復習:シグナル伝達について復習
8	原著論文の紹介(1)	・ 担当者による原著論文の紹介 (テーマ・シグナル伝達と運動適応)	予習:原著論文の検索 テーマに基づくレジュメ作成 復習:運動時のシグナル伝達に関 する先行研究の復習
9	輪読 (4)	・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・持久的運動による分子適応)	予習:参考書の通読 第4章のレジュメ作成 復習:持久的な運動による生体適 応について復習
10	原著論文の紹介(2)	・ 担当者による原著論文の紹介 (テーマ・持久的運動による分子適応)	予習:原著論文の検索 テーマに基づくレジュメ作成 復習:持久的な運動による生体適 応に関する先行研究の復習
11	輪読 (5)	・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・遺伝と持久的スポーツ)	予習:参考書の通読 第5章のレジュメ作成 復習:遺伝と持久的なスポーツの 関連性について復習
12	原著論文の紹介 (3)	・ 担当者による原著論文の紹介 (テーマ・遺伝と持久的スポーツ)	予習:原著論文の検索 テーマに基づくレジュメ作成 復習:遺伝と持久的なスポーツの 関連性に言及した先行研究につ いて復習
13	輪読 (6)	・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・レジスタンス運動の適応)	予習:参考書の通読 第6章のレジュメ作成 復習:レジスタンス運動について 復習
14	原著論文の紹介(4)	・ 担当者による原著論文の紹介 (テーマ・レジスタンス運動の適応)	予習:原著論文の検索 テーマに基づくレジュメ作成 復習:レジスタンス運動に関する 先行研究について復習
15	総括	・ 前期授業のまとめと休暇中の課題	各自設定した課題などの省察

授業科目(ナンバ	リング)	専門濱	買Ⅱ A (C	F301)	担当教員		川上 知子		
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修	
	授業のねらい								
本演習では、学校心理学を大きな柱として授業を展開する。基本的には、子どもに関わって、「学習」を促進したり、「心の問題」を解決したりするための学問とされ、生徒指導・教育相談、キャリア教育(進路指導)も包括する領域とも言える。指導・支援の土台となる一人一人の子どもの発達を、子どもたちの状態や状況から正しく把握することを目指し、その適切な支援・指導のありかたについて検討することが最も重要である。まずは、アセスメントに重きを置き、子どもの実態把握のための基本的な視点について習得することをねらいとする。									
ホスピタリテ ィを構成する 能力	ィを構成する 学生の授業における到達目標 方法								
専門力	・子どもの実態を把握するために必要な専門的知識について理解し、 簡単に説明することができる 発表・議論 ゼポート・プロ ゼン資料							10% 20%	
情報収集, 分析力	などだ ・多面的	いら事例や りに物事を	青報,理論 整理し,自	iを収集する  分自身が	新聞やニュース,文 ることができる。 どう考え捉えている 作成することができ	のかを意	ンポート・プレ ヹン資料	30%	
コミュニケー ション力					理解を示しつつ,自 とができる。		発表・議論 受業の振り返り	15% 5%	
協働・課題解 決力	・グループ(ペア)活動において、様々な問題を抱えた子どもの丁寧 な実態把握とそれに対する支援、指導の在り方について、互いに協発表・議論 力して検討を進めることができる。							15%	
多様性理解力 ・自身の課題への取組と他者の意見を通して、色々なものの見方、感 発表・議論 じ方があることを理解することができる。								5%	
			出	席			受験要	<b>F</b> 件	
			合	計			100%	/ <sub>0</sub>	

評価については、レポート・プレゼン資料の様式や内容を50%、発表・議論、授業の振り返り(授業後記述)を50%の比率で評価する。レポート・プレゼン資料は、文献等の引用ルールの順守等の基本的なアカデミックスキルと根拠を踏まえた論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レポート・プレゼン資料の作成に関しては、演習の初回で説明し、作成に関する修正点や質問等は随時対応する。発表・議論、授業の振り返りについては、専門的な視点への意識の有無やテーマに対する考えの深まりについて、発言の内容や議論への参加などを基準に評価する。なお、前回の授業の振り返りについては次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。

## 授業の概要

この演習では、学校心理学を大きな柱とし授業を展開する。各グループテーマを決め、様々な問題を抱える子どもたちの実態把握を丁寧に行い、その具体的な指導・支援(協力体制)の在り方について具体的に検討を行う。互いのグループ内での意見交流、グループ間の発表を通して、多様な問題があること、それに対するものの見方も様々であることそして、チーム(またはペア)で連携して実態を把握し、支援等を検討することの重要性を体感することで、互いの連携力も磨いていきたい。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

## 教科書・参考書

教科書:特に指定しない。

参考書:授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。

指定図書:思春期・青年期のこころ―かかわりの中での発達(平石賢二編著,北樹出版),生徒指導提要(文部科学省)

※留学生には別途、授業中に指示する

# 授業外における学修及び学生に期待すること

- 1. 他者の発表内容(テーマ)への理解を深めるために事前に資料に目を通したり、関連資料を収集したりすること
- 2. 発表の有無に関係なく、毎時間自分の意見を必ず発表することで、自分の考えを整理するよう努めること。
- 3. 自分の考えの根拠となる客観的資料(論文,著書など)の収集を普段から意識すること
- 4. 自分にとっての切実な心理的、教育的課題についての問題意識を整理すること。
- 5. グループワークの際は、互いに意見を出しやすい雰囲気づくりを意識すること。

П	テーマ	授業の内容	予習•復習
1	イントロダクション	メンバー自己紹介 授業の概要およびゼミの運営方法を確認する。	予習:事前にシラバス及び 演習概略を確認する
2	前学期の省察と本学期の目 標設定	個別面談による目標設定をおこなう。	予習:自身のこれまでの取 組や興味・関心について 整理してくる。
3	基本的知識の習得①	学校心理学の領域について(8つの領域)	復習:8つの領域の整理
4	基本的知識の習得②	子どもたちの学習や心の発達を援助するための,アセスメント,コンサルテーション,カウンセリングについて	復習:エリクソンの漸成発 達理論について復習
5	基本的知識の習得③	子どもたちが抱える諸問題について	予習:子どもたちが抱える 問題について具体的に調 べてくる
6	基本的知識の習得④	子どもの実態把握(アセスメント)の具体的提案	復習:アセスメントの方法
7	基本的知識の習得⑤	支援・指導の在り方についての具体的提案(連携の視点)	復習:連携の在り方について
8	グループテーマ決定	グループの決定と,グループテーマの検討,子どもたちが抱える具体的問題を一つテーマとして決定	復習:設定したテーマについての調べ学習
9	グループ活動①	対象と具体的な問題を設定,その背景についても推察 し,具体的な支援,指導の在り方をグループ内で検討 する	
10	グループ活動②	客観的根拠の収集 具体的な支援,指導については,ロールプレイによる 発表スタイル	復習:自分の問題意識に基づくテーマについての検討と探究
11	グループ発表①	グループ発表と議論、教員からのフィードバック	予習:発表練習 復習:議論についての整理
12	グループ発表②	グループ発表と議論、教員からのフィードバック	予習:発表練習 復習:議論についての整理
13	レポート・発表資料の構想	これまでの学びを振り返り,個人のテーマを設定 場合によっては個別対応あり	復習:レポート・発表資料 作成
14	レポート・発表資料の作成	テーマに関するレポート、発表資料作成	予習:学びの想起 復習:レポートの仕上げ, 発表資料の完成
15	成果の発表	テーマに関する発表	予習:発表練習 復習:レポート提出

授業科目(ナンバ	『リング <b>) 専門演習ⅡA (CF 301)</b> 担当教員 川上 直彦						川上 直彦			
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修		
	授業のねらい									
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明(古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等)を考古学、そして古代史の演習(ディスカッション、グループワーク、発表)の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。								156		
ホスピタリティ を構成する能力		学	生の授業	とにおけ	る到達目標		評価手段・方法	評価比率		
	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する									
ハルーエ	ポートを		ことにより	、読解力、	で献読解から情報収録 分析力、そしてレス			35%		
コミュニケーシ ョン力			• > - • •		疑応答と討議を実践 幸させることができ		発表	25%		
力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博 協働・課題解決 物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味について の形式 と 形式に対して									
多様性理解力								%		
			出	席			受験要	<b></b> <b> </b>		
			合	計	7 m 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		100	%		

各自、4本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の90%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。

#### 授業の概要

本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVD などの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

# 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:適宜プリントを配布する。 参考書:適宜プリントを配布する。

指定図書:世界の歴史1:人類の起源と古代オリエント(大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社)

授業外における学修及び学生に期待すること

古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。

口	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	はじめに 最古の村落の出現(1)	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散 1	復習:今回の復習 予習:初期農耕牧畜社会に ついて調べる
2	前学期の省察と本学期の目 標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を 設定する	予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習:本学期の目標設定の 清書
3	最古の村落の出現 (2)	レポート発表・添削・修正	復習:レポートの復習 予習:配布資料を読む
4	最古の村落の出現 (3)	レポート発表・添削・修正	復習:レポートの復習 予習:ウルク遺跡について調 べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市(1)	都市の成立と都市国家間の争い1	復習:今回の復習 予習:シュメール文明につ いて調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市(2)	都市の成立と都市国家間の争い2	復習:今回の復習 予習:配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市 (3)	レポート発表・添削・修正	復習:レポートの復習 予習:配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市(4)	レポート発表・添削・修正	復習:レポートの復習 予習:古王国時代について 調べる
9	古代エジプト文明(1)	古王国時代(ピラミッドが建設された時代) 1	復習:今回の復習 予習:ピラミッドについて調 べる
10	古代エジプト文明(2)	古王国時代(ピラミッドが建設された時代) 2	復習:今回の復習 予習:配布資料を読む
11	古代エジプト文明(3)	レポート発表・添削・修正	復習:レポートの復習 予習:配布資料を読む
12	古代エジプト文明(4)	レポート発表・添削・修正	復習:レポートの復習 予習:古代インダス文明につ いて調べる
13	古代インダス文明(1)	古代メソポタミアとの海上交易	復習:今回の復習 予習:配布資料を読む
14	古代インダス文明(2)	レポート発表・添削・修正	復習:レポートの復習 予習:配布資料を読む
15	古代インダス文明 (3)	レポート発表・添削・修正	復習:レポートの復習

展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい								
専門演習 IA・IB の流れを汲み、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問題を設定し、それについての答えをみつけるための哲学的思考能力に加え「論証力」を培うことを目的とする。そのために、論文執筆や実践のための指導計画に必要な技術習得を目標とする。卒業論文の執筆にあたっては「体育」「スポーツ」およびそれに関連するテーマを個人の関心や問題意識に基づいて設定し、本演習を通じて各々に合った研究方法を選定し取り組む。本演習では、教員や学生が共に対話(議論)の中で論文のストーリーを創り上げていくことを重視する。								
ホスピタリティを 構成する能力		学	生の授	業におけ	つる到達目標		評価手段・方法	評価比率
専門力	・専門分野研究 「体育」「スポーツ」「身体」に関する問いを人文科学的に考察でき る。体育スポーツの専門的な指導計画の立案や実践ができる。 ・指導立案や 指導実践							15%
情報収集、分析力		_	_		るニュース、コラム 人的な問題を設定で	、評論、書	資料収集 専門分野に関 する問題設定	3 0 % 2 0 %
コミュニケーショ ン力				-	ての個人的な問題意 けるための議論がで	職を他者と	他者の主張を 踏まえた議論 の展開	
協働・課題解決力								
多様性理解力								
_		•	出	席			受験要	<u></u>
			合	計			100%	6
1			377 Arre +16 20	4 T - 10 3 T /m	- rn 1.31 - 14 m = 3			

担当教員

神野 周太郎

# 評価基準及び評価手段・方法の補足説明

- ・議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメ(要約、自分なりの考察)が作成されているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。
- ・運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案(指導計画)を作成し、指導が展開されているかを評価する。
- ・フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。

#### 授業の概要

- ・教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問いを共有するためのレジュメ等の発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する。適宜運動実践も交えつつ発表内容や実践の省察を対話形式で実施する。
- ・本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問い を設定しその答えを導こうとする姿勢である。
- ・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。

授業科目(ナンバリング) 専門演習 II A (CF301)

## 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房

『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房

参考書:各県教員採用試験過去問題集(保健体育)\*指定しない

教員採用試験参考書(保健体育)\*指定しない

教員採用試験ステップアップ問題集(保健体育)七賢出版 \*該当年度の問題集

指定図書:雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、 雑誌『現代スポーツ評論』創文企画

『はじめての哲学的思考』 苫野一徳 2017 筑摩書房

# 授業外における学修及び学生に期待すること

「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報を蓄積すること。それが後に卒業研究論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。

就職に	こつながる。		
口	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	<ul><li>・本演習の概要説明</li><li>・個別に学業等に関する面談を実施</li></ul>	予習:前学期の省察 復習:個別面談内容を基に 本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目 標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設 定する。	予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習:本学期の目標設定の 清書
3	「論文」という伝え方ⅡA	論文は感想文やレポートと何が違うのか	予習:『新版 論文の教室』を 通読 復習:図書の「はじめに」と 「おわりに」を再読
4	レジュメの作成ⅡA	主張の抽出と思考の言語化ⅡA (テーマ:要約作業から論証作業へ)	予習:論文を検索し通読 復習:キーワード再設定の ち再検索
5	指導案の作成ⅡA	授業/指導計画と種目の教材化IIA (実技指導の対象に加え環境を選定)	予習:学習指導要領を通読 復習:種目別に段階的な実 技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ:遊びを本質とするスポーツ)	予習:レジュメの作成 復習:発表時に受けた指摘 をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ:体育、スポーツ、運動部活動、武道の区別)	予習:テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習:キーワード再設定
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目:ボールゲーム)	予習:種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習:種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ:スポーツ指導に科学的知識を活かす)	予習:テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習:キーワード再設定
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ:パフォーマンス向上のための取り組み)	予習:テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習:キーワード再設定
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目:陸上競技関連)	予習:種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習:種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習:指定された範囲を学 習 復習:間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ:スポーツ成績を左右するのは身体能力か メンタルか、幼少期からスポーツをすることの是非)	予習:テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習:キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (テーマ:幼児体育の指導法)	予習:種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習:種目の特性を見直し
15	まとめ	本学期授業のまとめと長期休暇の課題	・各自設定した研究テーマ や作成した指導案の省察

授業科目(ナンバ	リング)	専	門演習ⅡA	(CF301)	担当教員	担当教員 高橋 憲司				
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修		
授業のねらい										
する各種測定評価 て個人およびチー フォンを用いた文	専門演習ⅡA・ⅡBでは、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツに関する各種測定評価法の習得」を3大目標として、演習を展開します。ⅡAの前半から、各種ワークを通じ ① ② ⑤ で個人およびチームにて課題解決に取り組みます(コミュニケーション力)。また、PC もしくはスマート ⑦ ⑩ ② ⑤ フォンを用いた文書作成・表計算技能を習得します(メディアリテラシー)。ⅡA の後半では、スポーツ に関する各種測定評価法について実践を通じて修得し、研究に活用できるデータを同時に収集します。									
ホスピタリティ を構成する能力		学生	生の授業	におけ	る到達目標	評	価手段・方法	評価比率		
専門力	・各種スポーツの基礎的知識・マナーを修得できる ・スポーツに関する各種測定方法を適切に実施できる ・測定実技試験							10% 10%		
情報収集、分析力	用でき	きる。			研究・データ収集になる こ収集できる		作業課題 研究レポート	10% 30%		
コミュニケーシ ョン力		上同士で円ⅰ どミ生に対				組	フークへの取り み態度とワー による成果	20%		
協働・課題解決 力	・ワークへの取り ・各種ワークに対して、共同して全力で取り組むことができる 組み態度とワークによる成果							10%		
多様性理解力 ・自分自身の特長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、 周囲に不快感を与えない配慮ができる。 ・授業態度								10%		
	出席受験要件									
				計			100%	6		

●ワークへの取り組みと成果(30%):2~11回の全10回の結果で評価(各回3点満点:態度評価0~2点,成果0~1点)、各授業の後半にフィードバック。●作業課題(10%):メディアリテラシー課題を11段階で評価(0~10点)、13回の授業時にフィードバック。●測定実技試験(10%):第13回に実施、評価、フィードバックを行う。●課題レポート(10%):競技スポーツの特長について、11段階で評価(0~10点)、第10回時にフィードバック●授業態度(10%):10点満点から減点法とし、不快と感じさせるような行為に対して、その都度注意して、減点理由を説明する。●研究レポート(30%):授業での研究活動の内容を総合評価し、成績入力日までに個別にフィードバックする。●遅刻は、授業開始後30分以内の入室を意味します。●授業開始後30分以上経過した場合は、欠席とします。ただし、受講はできます。●遅刻は3回で1回の欠席として扱います。●出席状況が80%に満たない場合は、単位認定ができません。

## 授業の概要

本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施する。また、メディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにする。さらに、スポーツに関する専門的知識を高め、研究を行うための基礎力を習得します。尚、各スポーツ体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じることがあります(見学も可)。半期中に3日間のゼミ合宿(宿泊 or 通い)を実施します。学生の成績状況・課題達成状況によっては、朝ゼミ・試験対策ゼミを実施することがあります。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。

## 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介(杏林書院)ISBN-13: 978-4764411623.

参考書:「健康・スポーツ科学のための Excel による統計解析入門」 佐藤 進 他(杏林書院)ISBN-13: 978-4764411081 指定図書:「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康・体力づくり事業財団(南江堂)

## 授業外における学修及び学生に期待すること

**授業外における学習**:様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各スポーツの特性や可能性を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集を行ってほしい。

学生に期待すること:「受講規則」と「挨拶・礼儀」「時間厳守」「整理整頓」の基礎事項を遵守し、主体的・積極的に ゼミの活動に取り組んでほしい。授業を欠席する場合は、事前に連絡をするようにしてほしい。スポーツによる外傷・ 障害のある場合は、初期評価・相談が可能なので、気軽に相談をしてほしい。**筆記用具を毎回必ず持参してほしい**。

口	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	・目己紹介を他己紹介	予習:シラバスを熟読し理解する 復習:受講規則の確認
2	スポーツの規則	<ul><li>・コミュニケーションワーク(苦手なスポーツ)</li><li>・メディアリテラシー(文書作成・タイピング)</li><li>・アカデミックライティング</li><li>・レギュレーションとルールの違い</li></ul>	予習: レギュレーションとルールとの 違いを調査 復習:1種目において、レギュレーションとルールに類別する
3	各種スポーツを知る	<ul><li>・コミュニケーションワーク (得意なスポーツ)</li><li>・メディアリテラシー (情報収集)</li><li>・競技スポーツの特長を知る</li></ul>	予習:競技種目1つを選択し特長調査 復習:実際に興味のあるスポーツの情 報収集(文献の検索)をする
4	ターゲット型球技	・ターゲット型球技の特長を知る	予習:ターゲット型球技の特長調査 復習:ターゲット型球技を実際に体験 する(ダーツ、ボーリング等)
5	ターゲット型球技の体験	<ul><li>・コミュニケーションワーク(心理ゲーム)</li><li>・アカデミックライティング</li><li>・ターゲット型球技(ボッチャ・ゴルフ等)の体験</li></ul>	予習:怪我予防のため、30分以上の運動を週2日間以上行う 復習:ターゲット型球技を体験した疑問点・所感を整理する
6	個人競技スポーツ体 験	<ul><li>・コミュニケーションワーク (準備体操)</li><li>・アカデミックライティング</li><li>・個人競技スポーツ (主に陸上) の体験</li></ul>	予習:怪我予防のため、30分以上の運動を週2日間以上行う 復習:個人競技スポーツを体験した疑問点・所感を整理する
7	課題レポート (競技スポーツ)	・メディアリテラシー(エクセル演算・基礎)	予習: これまで調査・体験した競技スポーツの論点をまとめる復習: 課題レポートの作成
8	競技スポーツにおける性(セメンヤの事例)	<ul><li>・コミュニケーションワーク (ディスカッション)</li><li>・メディアリテラシー (エクセル演算・応用)</li><li>・スポーツのセクシャルマイノリティー理解</li></ul>	予習:キャスター・セメンヤ(選手) について調査 復習:五輪憲章の性への記述を確認
9	e スポーツ	・コミュニケーションワーク(e スポーツ) ・メディアリテラシー(エクセル統計・基礎) ・e スポーツの存在と是非	予習:国体 e スポーツ種目を調査 復習:体験版の e スポーツを 60 分以 上体験する
10	スポーツの測定評価 法① 資料編	<ul><li>・コミュニケーションワーク (疑似接客)</li><li>・メディアリテラシー (エクセル統計・応用)</li><li>・測定評価法の手順</li></ul>	予習:教科書から、興味のある測定法 3 つを確認する 復習:測定協力者(3 人以上)の確保
11	スポーツの測定評価 法② 測定練習編	<ul><li>・コミュニケーションワーク (営業トーク)</li><li>・選択した測定評価法の測定練習</li><li>・メディアリテラシー (測定用紙作成)</li></ul>	予習:測定手順・教示をマスターする 復習:専用の測定用紙を作成する
12	スポーツの測定評価 法③ 予備実験編	<ul><li>・コミュニケーションワーク (ミーティング)</li><li>・選択した測定評価法の予備実験</li><li>・メディアリテラシー (データ入力)</li></ul>	予習:測定方法の練習をする 復習:データ入力の独自フォーマット を完成させる
13	スポーツの測定評価 ④ ※測定実技試験	<ul><li>・測定実技試験</li><li>・試験の振り返り (フィードバック)</li><li>※作業課題のフィードバック</li></ul>	予習:選択した測定方法について、熟練するまで反復練習する 復習:実技試験・フィードバックを踏まえ、改善点を整理する
14	研究レポートの作成 ① 必要データの取得	り:15回終了の1週間後)	予習:不足のデータがないか事前に確 認する 復習:レポート作成に取り組む
15	研究レポートの作成 ② レポート作成	<ul><li>・アカデミックライティング</li><li>・研究レポートの作成</li></ul>	予習:研究レポートの作成 復習:研究レポートを完成させる

授業科目(ナンバ	業科目(ナンバリング) 専門演習ⅡA (CF301) 担当教員 陳 慶光						陳慶光		
展開方法 演習 単位数 1単位 開講年次・時期				開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修		
授業のねらい									
広い視点から学る なる視点からフィ	本演習では、ますます発展する市民マラソン大会を通じて、スポーツツーリズムによる地域活性化を 広い視点から学ぶ。今後のスポーツイベント運営・企画を担う人材に成長できるよう、専門演習 I と異 なる視点からフィールド調査とレポート執筆を中心に進める。そうすることで地域の魅力を再発見し、 引き出し、ひいては地域活性化に結実させる。								
ホスピタリティ を構成する能力		学。	生の授業	きにおけ	る到達目標	1111	平価手段・方法	評価比率	
専門力	スポー	スポーツツーリズムを全般的に理解することができる。 演習への参加度							
情報収集、分析力	フィー	ルド調査で	得られたラ	データを科	学的に分析できる。		F究レポートと プレゼンテーシ ン	50%	
コミュニケーシ ョン力					レポートとしてまと かり <i>や</i> すく発表する	ことがでし	「究レポートと 『レゼンテーシ ン	20%	
協働・課題解決 力									
多様性理解力	多様性理解力								
	出席								
			合	計			100%	<b>%</b>	
			<b>並はま</b>	住 乃ィド記 仁	チ段・大法の結旦部	HB			

- ・研究レポートとプレゼンテーション:スポーツツーリズムとフィールド調査に関する様々な概念の趣旨を身につけているかについて評価する。
- ・演習への参加度:議論やグループワークへの参加度合を評価する。 フィールド調査とレポート執筆の各段階におけるフィートバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。

### 授業の概要

本演習では、調査研究とレポート執筆を通して、コミュニケーション力と情報収集、分析力および課題解決力を身に付ける。スポーツツーリズムの現場でのフィールド調査を通じて、スポーツイベントに関する施策における課題、知識を徹底的に学びます。前期には問題設定と先行研究の渉猟、調査計画と予備調査を実施し、後期の本調査に備える。なお、各調査地域への旅費は各自で実費を負担する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。

# 教科書·参考書

教科書:特に指定しない。 参考書:適宜紹介する。

指定図書:『スポーツツーリズム・ハンドブック』、日本スポーツツーリズム推進機構編、学芸出版社

#### 授業外における学修及び学生に期待すること

膨大な知識と経験を要する、「スポーツツーリズム」と「フィールド調査」について総合的に学びます。そのため、 毎回の課題が数多く設定されます。継続的かつ主体的な学習態度が求められます。

本演習を選択する学生は、スポーツツーリズムを履修することが望ましい。さらに、専門演習 I からⅢにかけて、マラソン大会のランナー、ボランティア、観客として積極的に参加を推奨します。

回	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習 I の成果を振り返り、本学期の目標を設定する。	予習:シラバスを読む 復習:目標設定
2	マラソン大会におけるスポ ーツツーリズム ①	「前学期の省察」と「本学期の目標設定」について面 談を実施する。	予習:文献を読む 復習:目標設定と修正
3	マラソン大会におけるスポ ーツツーリズム ②	「する」、「みる」、「ささえる」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習:文献を読む 復習:目標設定と修正
4	マラソン大会におけるスポ ーツツーリズム ③	「する」、「みる」、「ささえる」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習:文献を読む 復習:目標設定と修正
5	フィールド調査の準備 ①	フィールド調査 (予行) の対象について、相互に討論して、各自調査したいテーマを決定する。	予習:調査対象について調 べておく 復習:目標設定と修正
6	フィールド調査の準備 ②	フィールド調査におけるデータ収集方法 (アンケート、参与観察、インタビュー) について学ぶ。	予習:文献を読む 復習:調査票の作成
7	フィールド調査の準備 ③	校内でアンケート調査、参与観察、インタビュー調査 を予行練習する。ハウステンボスバラとワインマラソ ン開催期間中にフィールド調査を行う。	予習:調査計画を立てる 復習:調査票の精査
8	調査結果のまとめ ①	フィールド調査を振り返り、ICTを活用したデータの整理・分析について学ぶ。	予習:文献を読む 復習:データの整理
9	調査結果のまとめ ②	質的データ分析の応用について学ぶ。	予習:文献を読む 復習:データ分析の応用
10	調査結果のまとめ ③	量的データ分析の応用について学ぶ。	予習:文献を読む 復習:データ分析の応用
11	研究レポートの作成 ①	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
12	研究レポートの作成 ②	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
13	研究レポートの作成 ③	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
14	研究結果の発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習:口頭発表の準備 復習:口頭発表の反省
15	まとめと展望	各自が本学期の調査を振り返り、後期の本調査に向け て検討する。	本学期の成果の確認

1又未行口()ン/、	ソレント	<del>寸</del> 门/9	яни (о	301)	担当教員		中局 金人叫	
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	別必修・選択	必修
授業のねらい								アクティブ・ ラーニング の 類 型
デーマ:地域文化資源の調査と収集 博物館及び地域文化資源に関するフィールドワークを行い、その成果をまとめて発表することができる。特に博物館の4大機能の中でも「収集」「調査研究」機能について学び、実際の収集・記録活動を行うことで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。								(6)(7)
ホスピタリティ を構成する能力		学	生の授業	におけ	る到達目標		評価手段・方法	評価比率
电四力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の収集・記 授業・調査への 録の方法を身に着けることができる。 参加度							30%
情報収集、 分析力	田本しまではしてきません。						40%	
コミュニケーシ ョン力					ウの実施により、集E 立案力を養うことが		グループワーク への取り組み	20%
協働・課題解決 力	協調性をまた、も	を養い、協	働して課題	解決に取り	を・研究を行う中でで り組むことができる。 ご理解することで多れ 奏う。	0	プレゼンテーシ ョン 研究発表	10%
多様性理解力								%
出席							[件	
合 計 100%								6

担当教員

中島 金太郎

#### 評価基準及び評価手段・方法の補足説明

- ・演習は、フィールドワークへの参加を中心とし、それに至るまでのグループワーク、現地調査への取り組み・態度を総合的に判断する。
- ・事後学習の一環として、フィールドワークで得られた研究成果を整理し、その提出を必須とする。

## 授業の概要

演習の方法は以下の手順で行う。

1. 博物館における資料収集および記録の目的・意義を確認

授業科目(ナンバリング) 専門演習ⅡA (CF301)

- 2. フィールドワークのテーマ・目的・場所・日程・方法についてグループワーク
- 3. テーマに関する文献資料の収集と分析、および文献調査成果に関するプレゼンテーションの実施
- 4. フィールドワークの実施(5 月下旬~6 月中旬に1日実施。踏査を基本とし、地域文化資源の捜索と収集、記録作業を行う。)
- 5. 収集した地域文化資源の整理(調書・文化財マップ等)
- 6. フィールドワークを基に自身の研究を検討し、研究内容に関する発表を実施

※旅費は実費負担とする。なおフィールドワークは、日帰りできる範囲で行う。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:使用しない

参考書:授業中に指示する

指定図書:青木豊編『人文系博物館資料論』雄山閣

#### 授業外における学修及び学生に期待すること

この演習は、博物館学芸員としての基礎である収集および調査能力を習得するものであり、フィールドワークを通じて実務能力だけでなく地域文化資源を判断する洞察力を養ってほしい。そのためには、普段から身の回りの自然や 史跡等にも注意を払い、些細なことにも疑問をもってそれを解決する意識を涵養してほしい。

※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。

口	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	演習内容の確認	ガイダンス(演習内容の把握)を実施。	予習:シラバスを読む 復習:フィールドワーク予 定地の考案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期の個人目標設定の ための面談を実施。	予習:前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習:本学期の目標を設定 し、用紙にまとめる
3	事前学習①	ゼミ内でグループワークを行い、フィールドワーク実施地を選定する。 併せて、フィールドワーク予定地に関する文献調査を行い、各個で調査内容を明確化する。 具体的には、歴史的環境・地理敵環境などの各分野を割り振り、文献調査を基に後日発表する。	
4	事前学習②	文献調査の成果をまとめ、プレゼンテーション用の資料 (パワーポイント、配布資料) を作成する。	予習:調査した文献の確認 復習:発表用資料 (PPT)、 配布資料の完成
5	事前学習③	文献調査の成果をゼミ内で共有するため、プレゼンテーションを実施。	予習:発表練習 復習:発表内容、発表方法 の振り返り
6	フィールドワークの準備	地図を基に具体的な調査方法を検討し、同時に日程・ 持参物等について確認する。	予習:各人の発表内容の再 確認 復習:準備事項の確認
7	フィールドワーク	5月下旬~6月中旬に、日帰りで地域文化資源のフィールドワークを実施する。(学外授業、調査日は天候等によって変更となる可能性あり。)	予習:フィールドワーク予 定地および調査方法の再 確認 復習:調査成果の見直し
8	整理作業①	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるよ うにする整理作業を行う。	予習:調査成果の再確認 復習:作業結果の記録
9	整理作業②	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を継続して行う。	予習:調査成果の再確認 復習:作業結果の記録
10	整理作業②	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を完了する。	予習:調査成果の再確認 復習:作業結果の記録
11	展示構想①	ゼミ内でグループワークを行い、展示のテーマ・内 容・展示方法を選定する。	予習:博物館を見学してパネルを写真撮影 復習:パネル・ポスター案の検討
12	展示構想②	ゼミ内でグループワークを行い、展示に使用するパネ ルや題箋、ポスター等について検討する。	予習:パネル・ポスター案 の検討 復習:決定内容の見直し
13	研究方法の指導	博物館における研究の方法について講義する。	予習:博物館情報・メディア論第3回の再確認 復習:自身の研究方針を再 検討
14	調査方法の指導	文献調査、アンケート調査などの方法について講義する。	予習:博物館情報・メディ ア論第3回の再確認 復習:文献調査を実施
15	調査・研究方針の決定	卒業研究執筆に向けてのテーマ案を構想し、ゼミ内で 発表する。	予習:テーマ素案の構想 復習:個人目標の達成状況 の確認

授業科目(ナンバ	リング) <b>専門演習 II A (CF301</b> ) 担当教員 東出 朋							
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
	授業のねらい							
	本演習では、ことばという、形のないものに値段がついているという観点から日本語を考える。「ことば の社会言語学的価値」について考え、日本語をはじめとした様々な言語にいかに格差が存在しているかを 学ぶ。							
ホスピタリティ を構成する能力		学生	生の授業	におけ	る到達目標	評	価手段・方法	評価比率
専門力	社会言語	社会言語学的価値について理解する。 発表 レポート						15% 20%
		インターネットや図書を活用して生データを収集・整理・分析するこ とができる。 発表						40%
フィューケーバ	ニケーシ 調べてきたことを簡潔にまとめて発表することができる。 発表 ディスカッションに参加し、自分の意見を的確に述べることができ ディスカッショ る。 ン						10% 15%	
協働・課題解決 力								
多様性理解力								
	出 席 受験要							件
	合 計 100%							

社会言語学的価値に関する専門知識について、普段の発表やレポートを30%で評価する。発表にあたって自分で情報収集・分析することについて40%で、自分の意見を簡潔にまとめて発表・ディスカッションすることについて30%で評価する。発表・レポートについては、授業内でフィードバックを行う。

# 授業の概要

授業内では、資料を輪読し、ディスカッションすることで知識を深める。授業外では、自分で情報を収集し整理したりする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学習時間は、45分とする。

# 教 科 書 ・ 参 考 書

教科書:井上史雄(2000)『日本語の値段』大修館書店

参考書:特になし

指定図書:田中ゆかり(2011)『「方言コスプレ」の時代――ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店

## 授業外における学修及び学生に期待すること

普段から語彙を増やすように積極的に努めること。

日本人学生は「日本語検定」、留学生は「日本語能力試験(JLPT)」を各自受験すること。

3年次で「日本語の研究 A/B」を受講すること。

口	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の進め方,評価方法の説明	事前にシラバスをよく読 み、学習項目を確認する。
2	前学期の省察	前学期の省察と本学期の目標設定、個人面談	予習)ルーブリック評価と 読書記録の入力 復習)ルーブリック評価
3	I ことばの知的価値と情的 価値	(1)日本語の言語市場	予習)I-1 を読む 復習)他言語について調べ る
4	I ことばの知的価値と情的 価値	(2)ことばの知的価値	予習)I-2 を読む 復習)他言語について調べ る
5	I ことばの知的価値と情的 価値	(3)ことばの情的価値	予習)I-3 を読む 復習)発表準備
6	I ことばの知的価値と情的 価値	発表	予習)発表準備 復習)他者の発表の感想を 書く
7	I ことばの知的価値と情的 価値	発表	予習) 発表準備 復習) I 章のまとめを書く
8	II 日本語の格付け	(1)日本語の市場価値の変動	予習) II-1 を読む 復習) 他言語について調べ る
9	II 日本語の格付け	(2)今なぜ日本語の試験か	予習) II-2 を読む 復習) 他言語について調べ る
10	II 日本語の格付け	(3)外国語の試験	予習)II-3 を読む 復習)他言語について調べ る
11	II 日本語の格付け	(4)ことばに値段がつく時代	予習)II-4を読む 復習)他言語について調べ る
12	II 日本語の格付け	(5)日本語の難易度	予習)II-5 を読む 復習)発表準備
13	II 日本語の格付け	発表	予習)発表準備 復習)他者の発表の感想を 書く
14	II 日本語の格付け	発表	予習) 発表準備 復習) II 章のまとめを書く
15	まとめ	前期のまとめ	予習)IとIIを振り返る

授業科目(ナンバリング)		専門	演習ⅡA(CF	F301)	担当教員	相羽 枝莉子		
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
	授業のねらい							
の知識を深めるこ た課題について、	スポーツ心理学の専門テキスト及び学術論文の輪読を通して、自己の興味・関心のあるスポーツ心理学の知識を深めることを目的とする。また、これらの知識をもとにスポーツの現場に出向き、そこで発見した課題について、解決に向けたディスカッションを行う。さらに、スポーツ心理学における実験・調査について理解を深め、レポート作成を通してデータ収集、分析、心理的考察の方法を実践的に学ぶ。							
ホスピタリティ を構成する能力		学生	生の授業	におけ	る到達目標		評価手段・ 方法	評価 比率
専門力	スポーツ指導者及びアスリートにおける心理学的課題について、専門 用語を用いて説明することができる。 研究計画を立て、調査結果を分析することができる。				いて、専門	プレゼンテーシ ン資料      査・実験レポー	15% 15%	
情報収集、分析力	スポーツ場面における心理的要因を中心に、客観的な根拠を基に自分ョン					『レゼンテーシ □ン資料 間査・実験レポー	30% 30%	
コミュニケーシ ョン力					ついて自身の意見を 長をすることができ		レゼンテーショ	10%
協働・課題解決 力								
多様性理解力								
	出 席 受験要件							‡
合 計 100%								

プレゼンテーション資料:プレゼンテーションの担当箇所の内容を理解し、要約できているかを評価する (評価比率:15%)。また、調べた情報から客観的な根拠を基に資料を作成できているか評価する (評価比率:30%)。

調査・実験レポート:授業内で行う調査・実験について専門用語を用いてまとめることができているかを評価する(評価比率:15%)。また、調査・実験で得たデータを、心理学的手法を用いて分析できているかを評価する(評価比率:30%)。 プレゼンテーション:担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する(評価比率:10%)。

※プレゼンテーション及びプレゼンテーション資料については、授業内でフィードバックを行う。

# 授業の概要

前半は、テキスト及び論文の輪読を通してスポーツ心理学の基礎知識を幅広く学ぶ。各章の担当者を決定し、担当者は事前にテキストを精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、授業内でディスカッションを行う。課題の提出及びレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。

後半は、メンタルトレーニングに関する基礎知識を習得し、実践活動への応用を通じて、課題発見・解決についてディスカッションを行う。さらに実験・調査を計画し、データ収集、分析、レポート作成を通して研究手法を学ぶ。 なお、当該授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

#### 教科書・参考書

教科書:使用しない

参考書:中込四郎他『よくわかるスポーツ心理学』ミネルヴァ書房,2012

指定図書:日本スポーツ心理学会(編)『スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版』大修館書店, 2016

#### 授業外における学修及び学生に期待すること

スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、学外活動では、地域の方々から学ぶ者として謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨み、時間厳守や報告・連絡・相談に努めること(なお、活動にかかる交通費は、原則自己負担)。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守ること。 ※本演習を選択する者は、スポーツツーリズムコースを履修することが望ましい。

回	テーマ	授業の内容	予習·復習
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、輪読担当箇所の決定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期の目 標設定	授業担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習: 前学期の省察と本学 期の目標設定の下書き 復習: 本学期の目標設定の 清書
3	輪読(1)	スポーツ心理学の知識(1)	予習:担当箇所の精読・要 約・レジュメを作成する
4	輪読 (2)	スポーツ心理学の知識 (2)	予習:担当箇所の精読・要 約・レジュメを作成する
5	輪読 (3)	スポーツ心理学の知識 (3)	予習:担当箇所の精読・要 約・レジュメを作成する
6	スポーツボランティア活動	スポーツボランティア活動に参加し、心理学の観点 から課題を発見する	予習:活動内容を振り返り、課題を整理する
7	輪読 (4)	自己のテーマに関する文献の考証	予習:担当箇所の精読・要 約・レジュメを作成する
8	輪読 (5)	自己のテーマに関する文献の考証	予習:担当箇所の精読・要 約・レジュメを作成する
9	輪読 (6)	自己のテーマに関する文献の考証	予習:担当箇所の精読・要 約・レジュメを作成する
10	実験・調査計画(1)	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテ ーマに関する調査・実験を計画する	予習:調査・実験計画書を 作成する
11	実験・調査計画(2)	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテ ーマに関する調査・実験を計画する	予習:調査・実験計画書を作成する
12	実験・調査	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテーマに関する調査・実験を実施する	復習:調査・実験のデータを 整理する
13	実験・調査の分析	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテ ーマに関する調査・実験結果の分析	予習:調査・実験結果の分 析
14	実験・調査レポートの作成	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテ ーマに関する調査・実験の考察、レポートの作成	予習:調査・実験のレポート 作成
15	発表	競技心理、メンタルトレーニング、または自己のテーマに関する調査・実験結果に関するレポートの発 表及びディスカッション	復習:調査・実験のレポート 修正